

2013年開設から10年目

吹田子ども支援センター

2022 (R4) 年度

活動報告&活動案内



コロナ感染禍の学習支援

子どもをささえる 市民がつながる

- ① 子どもをささえる……相談 学習支援 居場所 (子どもカフェ)
- ② 親・保護者をささえる……子育て教育への助言
- ③ 学校・先生とつながる……地域連携と教育支援
- ④ 市民がつながる……市民支え合いネットワーク
- ⑤ みんなでまなぶ……講演会 交流会の企画

吹田市民公益活動団体

吹田子ども支援センター

住所：〒565-0851 吹田市千里山西1丁目 2-7-102

阪急関大前駅北改札口西側徒歩2分

千里山西郵便局 階上2階

電話：090-3464-0850



2022.4.1

2013年に開設…不登校の親子支援の市民活動

私たちは、2013年(H25)4月に「吹田子ども支援センター」を開設して以来、不登校生の親子への支援などを目指して9年間活動してまいりました。

9年間の親子の支援活動には、吹田市民や市民活動団体、千里山地域住民の皆様、学校や行政機関の皆様にご多大な助力と連携をいただきました。

2021年度の活動…コロナ感染下 相談・学習支援の増加

不登校の子どもの現実は深刻で、不登校の小中学生は8年連続増加し、全国で19万6127人(2020年度)、吹田市では549人に至っています(2020年度)。

2021年度の当センターでの相談件数・学習支援件数も例年以上に増え、相談件数は359件、学習支援は1039件に達しました。

そうした中、コロナウイルス感染一層の拡大は、社会のあり方を大きく変化させ、親子に大きな負担を強いることにもなりました。

コロナ感染拡大による休校措置・学校や地域行事停止などが不登校生・ひきこもりの子どもが一層増加した要因にもなっています。

2021年度は、当センターに通う子ども達やその親たちも多数感染しスタッフも濃厚接触者となりました。支援活動を行う中であって、当センターでは、やむなく8月からは感染防止のために家庭訪問活動を休止し、8月27日より9月13日まで一部活動を停止しました。

子ども達もコロナ感染拡大に悩まされた一年でした。

光が見えてきました…感想文をお読みください

当センターに多数寄せられる相談には、社会や家庭、学校教育が抱える深刻な問題が背景となっており、当センターのだけでは対応出来なかつたり解決したり出来ないことも多くありました。

そんな中であっても、支援の結果、親子共に意欲的になったケース、不登校・引きこもり・教育トラブルから光が見え解決したケースも多くありました。

しかし、一方では支援してきた子どもたちが進学先でも社会に出ても様々な課題に直面している実態が伝わってきます。引き続き具体的な支援が必要だと痛感

し支援を続けていきます。

親子の様子を知っていただきたく、保護者や子ども達、スタッフや市民の感想文を添付しています。是非ともお読みください。

補助金の打ち切り…2021年度限りで

吹田市は、2016(H28)度に市民活動に対して「地域住民居場所づくり活動補助金」制度を新設しました。当センターも6年間補助金をいただき活動の支えとなっていました。補助金のおかげで、保護者からいただく相談料や学習支援料も低額に抑えることが出来ました。特に貧困家庭の負担を極力低減することができました。ありがとうございました。心から感謝しております。

…しかし、その補助金も、2021年度限りとなりました。

吹田市・吹田市教育委員会・学校など公的機関が不登校の子どもや保護者のために施策を一層充実深化させていただきたいと願うと共に、市民活動への理解と支援を行われるよう切に願うものです。

10年目を迎えて…山積する課題と決意

当センターへの相談件数や学習支援件の要望が増える一方、財政の逼迫、スタッフの高齢化、スタッフの確保など困難な課題を抱え、運営は一層厳しくなっております。

本年度も親の負担を極力低減させる事を大切にしながら、一層経費を切り詰め、活動していく事にしました。

引き続き皆様方のあたたかいご支援いただければ幸いです。

2022年(令和4)春

吹田子ども支援センター

代表 森本英之

元 吹田市立第一中学校 校長
元 吹田市不登校児童生徒支援員
元 吹田自主夜間中学校 代表



活 動 報 告

め ざ す も の

子どもをささえる 市民がつながる

- ① 子どもをささえる……相談 学習支援 居場所(子どもカフェ)
- ② 親・保護者をささえる……子育て教育への助言
- ③ 学校・先生とつながる……地域連携と教育支援
- ④ 市民がつながる……市民支え合いネットワーク
- ⑤ みんなでまなぶ……講演会 交流会の企画

活 動 の 歩 み

- ◆ 2013年4月1日 千里山(関大前)に開設
- ◆ 2013年5月1日 ホームページを開く「支援センターだより」発行
- ◆ 2013年6月1日 開所式
事務所の開所式には、吹田市長、教育長、吹田市議会議員、教育関係者、地域の方々、サポーター等72名が駆けつけて下さいました。
- ◆ 2013年10月7日 心療内科ショート・デイに協力(毎週木曜日実施)
- ◆ 2014年4月5日 総会
総会当日には、吹田市長、教育長、国会議員、吹田市議会議員、教育関係者、地域の方々、サポーター等29名が駆けつけて下さいました。
- ◆ 2014年5月1日 「子どもカフェ」開設
- ◆ 2014年12月26日 大阪府教育センター研究フォーラムで発表
- ◆ 2015年6月3日 大阪商工信用金庫より社会福祉賞奨励賞受賞
- ◆ 2016年～ 吹田市地域住民居場所づくり活動補助金を受ける
- ◆ 2018年3月 吹田市子ども・若者支援地域協議会参加

- ◆ 2018年7月 大東市「ふれ愛教育協議会」にて講演
- ◆ 2019年8月5日 吹田市保護司会にて講演
- ◆ 2020年11月26日 吹田市小中学生指導協議会にて講演
- ◆ 2021年7月27日 吹田一中、千二小、千三小へオンライン講演
- ◆ 2021年8月18日 吹田青年会議所例会でオンライン講演
- ◆ 2021年11月3日 吹田市内放課後デイ等オンライン講演
- ◆ 2022年2月15日 吹田市長、教育長、市議会議長他へ「吹田市在住の特別支援学級在籍児童生徒の教育支援教室の利用の権利保障を求める陳情書」を市民団体と共に提出

活動に広がり

(以下の報告は2013/4/1~2022/3/31 現在までをまとめて報告しています)

- ◆ 会員・賛助会員・サポーター 167人
- ◆ 事務所来訪及び訪問先懇談者(総計) 11074人
- ◆ HPのアクセス(2020まで)以降カウンター故障 27713件
- ◆ 電話相談・来所相談(2021年度) 359件
- ◆ 子ども相談と学習支援(2021年度) 1039件
- ◆ 心療内科ショートデイプログラムに協力 48回
- ◆ 講演会や懇談会を実施 45回

地域や大学・学生連携

- ◆ 一中校区「たそがれコンサート」模擬店出店
「千三地区公民館文化祭」模擬店出店
千三地区公民館企画運営委員として参画。
地区青少年対策会議にオブザーバー参加。
- ◆ 地区公民館にて「宿題広場」「子どもサポート広場」を開設。
- ◆ 関西大学など教育関係者・大学生との連携
- ◆ 事務所来訪者及び訪問先懇談者 2021年度1398人(累計11074人)

会員・サポーターとしてお力添えを!

2021年度収支報告

多くの方々からのサポートをいただき活動の継続と支援ネットワークを一層充実させたいと思っています。経済的な事情を抱えた方の支援の配慮も継続して行っていきたく願っています。ご支援をお願いします

吹田子ども支援センター会員募集

- ◆ 正会員 入会金1万円 年会費3千円(1口)
 - ◆ 企業会員 入会金1万円 年会費3万円(1口)
 - ◆ 賛助会員 入会金なし 年会費 3千円(1口)
 - ◆ サポーター 入会金なし 年会費 なし
- ★ 正会員・企業会員のみ、総会において議決する権利があります。
- ★ 正会員・企業会員・賛助会員・サポーターの皆様は、事務局の依頼で、活動へのご協力をお願いします。
- ★ 総会の案内は、ホームページでお知らせします。

収入内訳	
吹田市活動補助金	1000000
賛助金・寄付	359691
相談及び学習支援料	443000
合計	1802691

支出内訳	
事務所賃貸料	600000
事務生活用品・教材費	229834
交通費・郵送費	16775
光熱費・電話代	75882
人件費及び報償費	880200
合計	1802691

お振り込みは下記までお願いします。

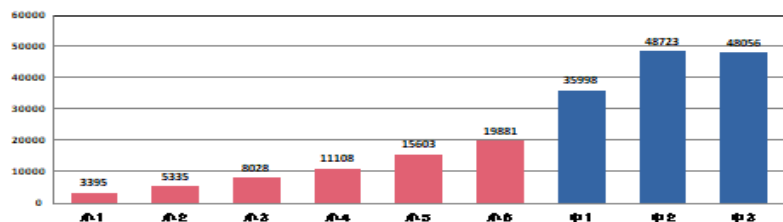
- 郵便振替 ゆうちょ銀行 千里山西郵便局 099支店
- ◆ 当座預金 ◆ 口座番号 00970-2-0-164772
- ◆ 口座名義 吹田子ども支援センター



解決は教育の重要課題

不登校生 全国で19万人 過去最多 8年連続増

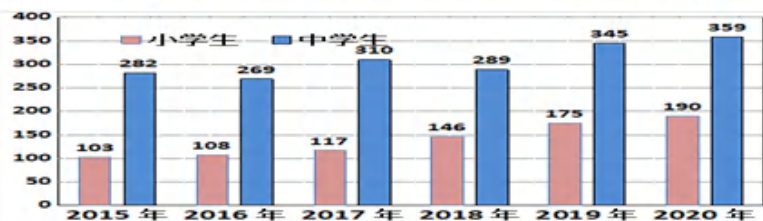
学年別不登校児童生徒数(全国)
(2020年度 文部科学省調査より)
 小学生 6万3350人 (100人に1人)
 中学生 13万2777人 (25人に1人)
 ※参考 高校生 4万3051人 (72人に1人)



吹田の不登校生549名

中学生は、25人に1人

近年は小学生の不登校が増加

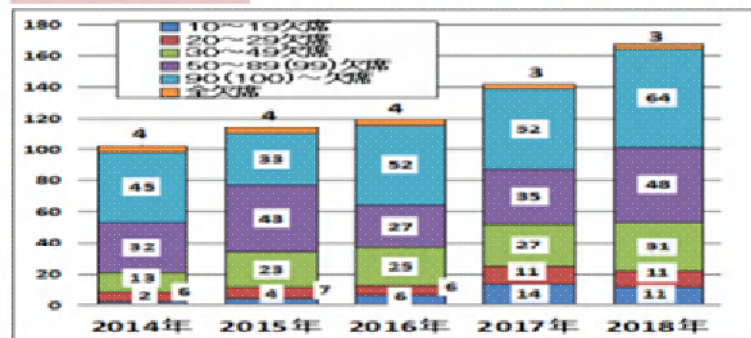


(2020年度吹田市学校教育の概況より)

ほとんどが自宅でひきこもり

小学生

吹田市における過去5年間の欠席日数別児童・生徒数の推移

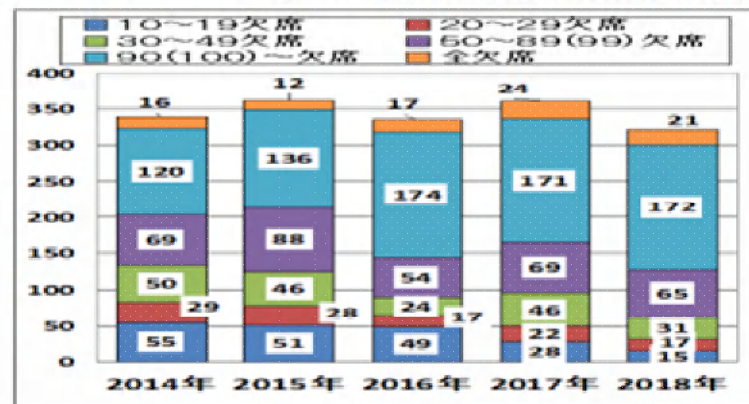


不登校解決は教育の重要課題

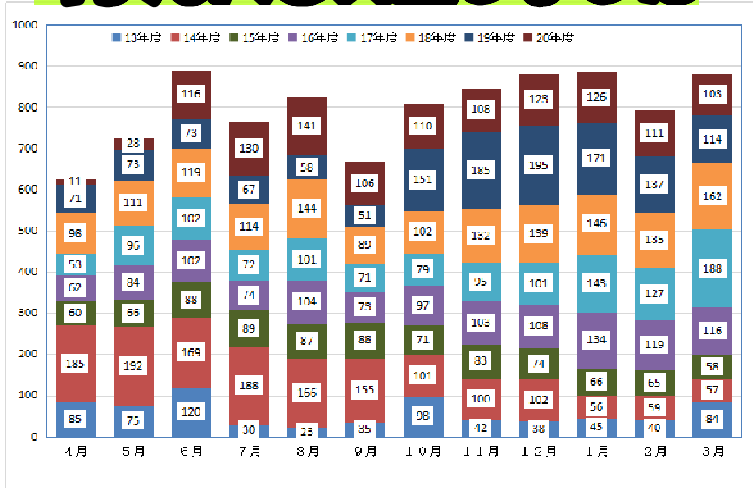
市民の共生・共助の課題です

中学生

吹田市における過去5年間の欠席日数別児童・生徒数の推移

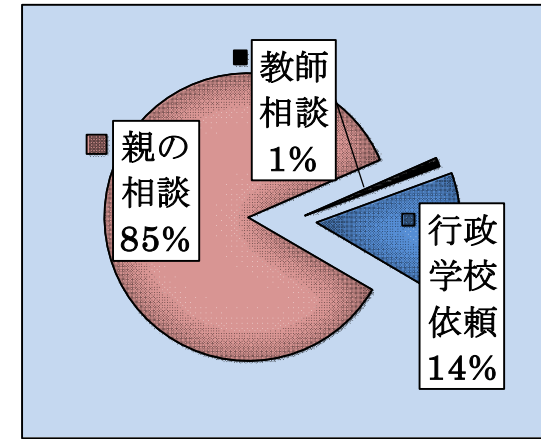


1398人と支援しました



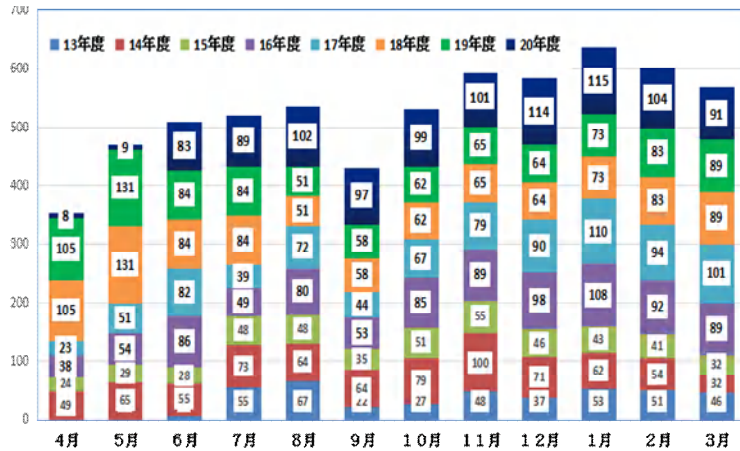
※ 訪問先は、1人として算出

近年は行政。学校が増加



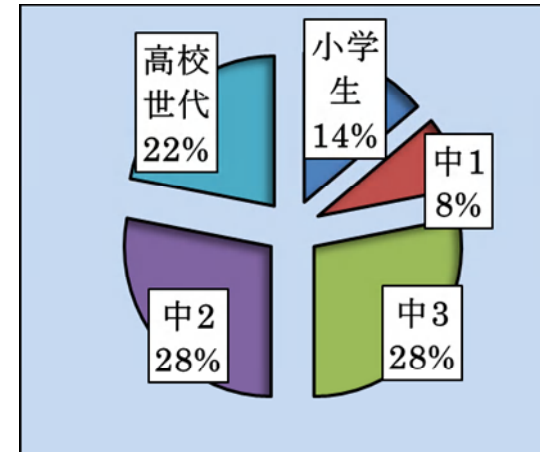
子ども支援は年間実施

1039回 学習支援



学習支援の中心は中学生

近年は小学生が増加



依頼の多くは親・保護者

「まさかうちの子が」

…ありのままの自分を受け容れてくれる

居場所に出逢えました…

小4女子、小2男子の母親

「不登校」という状態は、今になって振り返ると、誰でも、どんな子であっても、なり得るのだな…と、感じています。

ふとしたことがきっかけだったり、見えない何かの蓄積だったり。

どんなことがあっても、子どもに本気で寄り添い、全力で支え、子どもの未来に責任をもてる大人でいたいと、強く思います。そう思えるのは、「吹田子ども支援センター」との出逢いのお蔭です。

娘と息子は、保育園ではとても明るく、友達とも仲よく遊び、先生方の話もよく聞き褒められる、素直な子たちでした。ふたりはそれぞれ小1の夏休み明けに、少しずつ登校しぶりが始まりました。繊細な姉は大阪北部地震のショック、ADHD グレーの弟はコロナ禍での学校のピリピリした空気に、一気にしんどくなってしまったようです。

私も、多くの親御さんがおそらくそうだったように、「まさかうちの子が」と、最初はとても信じられない想いでした。それでも家では必死に笑顔を作り、自身を責め続ける想いもこらえ、冷静なふりをして丁寧に彼らの話を聞こうとしていた記憶があります。

それでも、娘は「怖い」と、毎日泣き続け、奥の部屋の隅でうずくまって動けない日が半年以上続き、何を話しかけても震えるだけで、家庭内は重い空気に包まれていきました。

小学校の先生方、SSW さん、教育センター、児童精神科医、児童デイ、ファミサポ援助員さん、人のご縁には幸い恵まれており、たくさんサポートをいただきました。

彼らの安心できる、「居場所」を必死に探していました。

ある晴れた日、父親が子ども達を公園へ連れ出し、偶然、同じ保育園の母子友だちと逢いました。そのとき、吹田子ども支援センターの存在を教えてもらった

ことがきっかけです。これまで自力で調べた機関は正直高額で家計的にとても厳しかったり、遠方だったり、障害認定がないと利用できなかったり…で、半ばあきらめていました。

初めてセンターに伺った日のことは、一生忘れられません。何かを言わなければ、説明しなければ…という母の焦りをそっとなだめ、まず、娘本人の目をまっすぐにみて、優しく話しかけてくださった森本先生の笑顔に、ああ、これは大丈夫やな、と確信しました。

緊張してカチンコチンに固まっていた娘も、話題豊富で明るい森本先生のお声がけ「趣味や得意なこと、何?」「やってみたいことはある?」に、少しずつ心がほぐれていき、「お菓子作るのが好き」「おお!じゃあ、お菓子屋さんをしている教える子がいるから、その店で、こんど一緒にクッキー作ろう!」と、そのときはまさかと思ったのですが本当に実現してしまい、先生の行動力の早さと約束を必ず守る姿勢に、心から感謝、尊敬しております。

思春期の繊細な娘には優しいお姉さんが良いだろうとおっしゃって、現役大学生の不登校経験のある方に学習を見ていただけることになりました。とても性格が合うらしく、母子以上に仲良く盛り上がり楽しく過ごし、学習している姿が、本当に心強くありがたいです。「私不登校ですが、それが何か?」と、母に笑って言えるようになったのも、ありのままの自分を受け止めてもらっている居場所への安心感があるからこそ…なのでしょうね。(外では言えませんが、笑)

二つ年下の弟が不登校になった際も、相談してみると、いらっしゃいと即答して頂きました。変化球タイプで落ち着きがない弟にも、一緒に面白がりながら心から楽しそうに(もしかしたら先生ご自身が一番楽しいのかなと思ってしまうぐらいの無邪気な感じ)接してくれて、なかにはすぐそばの消防署や高速道路にも連れ出してもらった日もありました。

本人の良い面を認めて褒めて、でも言うべきところはハッキリ伝えて、学習もそれぞれのペースで進めてくださり、この子達が90分間ずっと椅子に座っていることが…親にとっては奇跡としか言いようがなく、もう本当に、感動するのみです。

子どもだけでなく、母親が相談する時間もしっかりとってくださり、メールやラインには必ず丁寧なお返事をいただいています。参考書籍や支援機関の具体的なアドバイスも受けました。センターが昨年のコロナ蔓延で活動休止になった間も連絡や自宅訪問をしてくださり、昨年末に父親が過労で倒れたとき、私たち家族がコロナ罹患で1か月連続の自宅療養となったとき、などなど、数えきれないぐらい相談に乗ってもらい励まされました。

森本先生のスタンスとしても、無理やり押し付ける感じは全くなく、こちらが必要としたときは夜間でも休日でもいつでも返事をくださる距離感が、とてもありがたく心強いです。

週に一回お世話になりながら、学習支援だけでなく、家庭的なほっとする雰囲気の中で、子どもも親も、貴重なお時間をいただけているご縁に、心から感謝しています。

どうか、この温かな場所が、これからも多くの方に伝わりますように、と、祈っています。

「どんな子どもにも無限の可能性がある」といいます。「学校」の教育現場で先生方が日々精いっぱい取り組まれていることには尊敬しています。一方で、「不登校」など集団生活への不安に苦しんでいる子ども達がたくさんいる現実、親もまた追い詰められ、居場所を必死で探し続けている。ひといちばい繊細だからこそ不登校やひきこもりになってしまっている子ども達に、本気で寄り添い、必要なサポートをし、その子にしかない能力を引き出すことができたなら、将来その子たちが大人になったとき、社会にとって大きな戦力になるはず。センターや森本先生への恩返しとしても（一生かかっても返しきれないですが）、一人の大人としても、何ができるのだろうか、と、ずっと、考えています。

これからも波乱は続くと思いますが、いまは未来を信じることができています。いつも、支えてくださり、ほんとうに、ありがとうございます。(2022年3月)



不登校になった我が子

…自分を責め焦る毎日でした！

中学2年生男子の母親

我が子は、中一の12月から不登校が始まりました。2学期になり2週間に1度調子が悪いと言って休む様になって、ある日、急に行けなくなりました。

そして、朝も起きられなくなり、「起立性調節障害」という事がわかりました。病院に連れて行くのに、しんどさでなかなか起ききれず、検査を受けるのに、2週間ほどついやす事となりました。

我が子が不登校になるなんて…と、こんな風になってしまったのは、母親である私のせいだ！と、毎日何度も自分を責め続けていました。この子を早く立て直さなければ！と、スクールカウンセラー・小児科のドクター、スクールソーシャルワーカーさん達にお知恵をかりながらも、焦る毎日でした。

出来る限りゆったり穏やかに過ごせる様にと、家では気を配りました。母親の私がそうすれば、3ヶ月くらいでまた元の元気な姿に戻るんじゃないか?!と、淡い希望を抱いていたのです。

しかし、依然として、朝は起きられず夜は寝れないという毎日に、焦りが出てきました。

家庭内もギクシャクしたまま、このままでは我が子は、私達は一体どうになってしまうのだろうか、毎日が不安で不安で仕方ありませんでした。

そんな時、スクールソーシャルワーカーさんから、吹田子ども支援センターの事をお聞きしました。

何度も事務所の前を通っていたのですが、初めてその存在を知り、ここが吹田子ども支援センターだったのか?!と、恐る恐る覗いてみました。

ドアには電話番号が書いてあり、ご連絡すると、さっそく、次の日にアポイントを取って下さいました。

子どもにこちらの支援センターの事を話すと、「一度行ってみようかな?!」という事になりました。

訪問当日、直前に子どもが緊張のあまり落ち着かなくなり、お腹が痛くなり始めました。

今日は無理かも…と、不安が私の頭をよぎりました。

先生から、「大丈夫です。遅れても、突然のキャンセルになっても、かまいません。よくある事ですので、私への気遣いは、無用です。お子様に無理をさせない

範囲で、背中を軽く押してあげて下さい。」と、連絡を頂いた事から、気を取り直し、息子と支援センターへ向かいました。

外の階段下の入り口で、森本先生が待っていて下さり、「〇〇君、待っていたぞ！」と、大きなお声をかけながら、我が子を包み込む様に教室へと上がって行きました。

そのまま一緒に上がったのです。

こんな風に、待っていてくれる人がいるんだ！と、心が震えたのを今でも覚えています。

そして、「ここなら大丈夫！」と、私の気持ちは落ち着いていました。

今もたまに急なキャンセルをする事もあり、我が子の姿に、居てもたってもいられないのですが、森本先生には、わがままを言ったり、時には現実を教えてもらったりと、息子とより良い関係が出来ている様に感じます。

ある時、今年度で補助金が打ち切りになってしまう事を知り、塾が終わってしまうかも？と、とても困惑して帰ってきました。

先生の事を大切に想っているので、「将来、跡をついでいこう！」と、本人なりに色々と考えていました。

森本先生が、「打ち切られても存続するから大丈夫！」と言って下さった事で、本人も少し安堵しておりました。

けれど、今度は先生のお金の事を心配し始めていました。

将来をになう、息子や子ども達を、いかに安心して過ごせる様にするのかは、大人の役割なんだと気づきました。

子どもが安心して過ごせる様に「私は何をしたら良いのかな？」「私には何が出来るのかしら？」と、存続の危機という事から、改めて考えさせられました。

こうしたお気持ちのある先生方と出会えた事はとてもありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

今はまだ苦しい時ですが、いつか、「こんな時があったよね」と、笑って話したいな！と、子どもの成長を楽しみにしよう！と思える事が増えた今日この頃です。こう思えるのは、「息子には居場所がある事」「息子を理解しようとしてくれる人がいる」

という安心感からだど固く信じています。

我が子に寄り添ってくださり、本当にありがとうございます。

これからもどうぞ宜しくお願い致します（2022年1月）

外出を拒む子にありがたい訪問支援

… 保護者（男子Nの母）

私の息子は、小学生2年の3学期から完全な不登校になりました。もうすぐ5年生です。このまま学校には無縁の生活になりそうな状態ですが…。

息子のイライラのコントロールができずに暴力的な大変な時期の事を思えば、今は、とても穏やかで、落ち着いた日々にはなりました。

息子が小学3年生になった頃、悩んでいた私に、放課後ディの方から、森本先生を紹介頂きました。

連絡をとったところ、すぐに話を聞く時間を作って下さり、また一つ、頼れる所が、出来たと安心した記憶があります。外に出ることを拒む息子には、訪問してもらえることはとてもありがたかったです。

すぐに訪問支援を依頼しましたが、数か月後、息子は訪問支援を拒否し、結局一旦離れる形になりました。

数か月後、私の勧めでは全く勉強をやろうとしない息子が、森本先生となら勉強をやると言い出したので、このチャンスを大事にせねばとお忙しい森本先生にお願いし、週に一回の一時間枠を調整して頂きました。

週一回の利用になって一年くらいが経ちますが、やると言いつつもなかなか気乗りしない息子。森本先生は、先ずは関係作りからと色々な提案され、あの手この手で関わりながら、少しでも勉強できるようにと努力して下さいています。

しかし、納得出来ない何事も取り組まない手強い息子は、なかなか勉強に至らず、今は訪問していただいた森本先生を相手に将棋をする日々です。

全く勉強しなくなり2年近くか過ぎた今、親としては、最低限の勉強はせめてして欲しいという焦る気持ちを押し殺して、ただただ、本人のやる気が出るのを待っています。

森本先生もタイミングを探しながら、関わって下さっています。まだまだ、先は長い道のりです。

勉強に取り組み、色々な目標を達成しているお子さんの報告を羨ましく見えています。いつの日か我が子も…と、微かな期待をしつつも、その期待が子どもの負担とならないように子どものペースでいつの日か目的を見つけて頑張ってもらえたらと思っています。

今後とも末永くよろしくお願い致します。（2020年3月）

※ 半年後から、教科学習に入り、センターの学習支援を継続しています。

不登校だった私…感謝しかないです！

… 高校2年生女子R

私は中学二年生の時から学校へ行かなくなりました。朝と夜が逆の生活になっていて、起きるのは夕方、寝るのは朝という不規則な生活をおくっていました。

ごはんも、お菓子を食べるか、夜ごはんを1日1回だけ食べるという生活でした。起きても特にする事が無いので毎日ぼーとしていました。

家にばかりずっといるので、最初は何ともなかった外に出るという事が怖くなっていました。しまいには、自分の部屋のカーテンさえ開けるのが怖くなってきました。

こんな生活をずっとしていると将来の不安も出てきました。

「この先、このままだと自分はどうなるんだろうか？自分はいらない、誰からも必要とされていない人間だから生きていいのだろうか？」

そんな時に、両親が「森本先生のところに1回行ってみないか」と言ってきました。すぐに決断できなかったです。でもこのままでは、この繰り返しだと思い、行ってみることにしました。あの頃の私は、多分、笑顔もなく全然しゃべらない子だったと思います。

そんな私を、森本先生や吹田子ども支援センターのみんなはあたたかく迎えてくれました。

最初の1ヶ月ぐらいいは、週に1回行くか行かないかぐらいのペースで行っていました。朝と夜も逆転していたので、最初は全然起きられなかったです。行っても、お昼過ぎに来て少し事務の人としゃべってからすぐに帰っていました。

1ヶ月過ぎたあたりから森本先生に勉強してみないかと言われました。最初は、15分も勉強できませんでした。それが20分、30分と段々延びていきました。人から見たら少ないと思います。しかし、学校に行けなくなって家にずっといた私からしたらすごい事です。

勉強する事によって教えてくれる大学生の人としゃべるようになりました。こうして少しずつ人としゃべれるようになっていきました。クリスマスパーティなど色々して、外にも普通に出来るようになりました。

高校も、最初は「自分なんて行けないだろうな」と諦めていました。

ですが、森本先生や吹田子ども支援センターの人々のおかげで無事高校にも入学できました。高校でのテストで点が悪く困っていた私に、今も勉強を教えてくれてます。

私は恵まれていると思います。感謝しかないです。

外にも出られずにずっと家の中にいた私が今こうして外に出られて人としゃべれているのは森本先生や吹田子ども支援センターに出会ったからです。

もしも出会わなければ、外にも出られずに今でも私はずっと家にいたと思います。高校にも行けてなかったと思います。

私は、子どもカフェに入って、人と接せられるようになり、人と接する楽しさがわかりました。

外に出られなかったり、あまり上手にしゃべれなく悩んでいる子に、子どもカフェに行き、勉強だけでなく、人と接する楽しさをわかってほしいです。

(2015年3月)

(追記)

この吹田子ども支援センターの皆さんの支援のおかげで無事高校に入学できました。

高校生になってからも中学生の時に勉強していなかったこともあり、最初は高校の勉強に全然ついていけなかったです。その上、部活や通学で毎日遅くに帰ってきました。

そんな私に合わせて、夜遅い時間からや休みの日も勉強を教えてくださいました。私は、基本英語を中心に教えてもらっていたのですが、定期テストの前になると他の教科も教えてもらいました。それが高校3年生の卒業後まで続きました。おかげで、高校の成績はどんどん伸びていきました。

支援センターに最初に来た時は、高校受験もあきらめていた私でしたが、次第に大学受験を考えるようになりました。教えてくれている大学生の進んだ道にあこがれ、大学に行き留学し外国で生活することも考え始めました。行ってみたい大学が出来ましたが、今の自分の学力では足りなくて悩みました。

でも、そんな私に、英語を教えてくれていた大学生は、わざわざ自分の空いている時間を使って毎日のように教えてくれ、ずーっと励ましてくれました。高校三年間、受験の前日まで続きました。本当に助かりました。大学受験の時も、その方からもらったお守りを持って行きました。

おかげで、高校も無事卒業でき、希望の大学に入学することが出来ました。本当に感謝しかありません。

吹田子ども支援センターがなければ、今の私はないと思います。

今、高校も卒業でき、大学生となり、森本先生に声をかけていただき、今度は、支援センターに来ている他の子どもに教える立場になりました。大学入試が終わってからは、支援センターで小学生や中学生の勉強の手伝いを始めています。

これからは、今まで私がしてもらったように勉強や学校のことなど様々なことを教えたり、また、自分の経験から、悩んでいる小中学生の相談にのってあげられるようになりたいです。

※ 大学を卒業し、教員免許も取得。現在は障がい者支援の仕事をして夢に向かっていきます。

娘に笑顔が戻りました

保護者（女子Tの母）

娘が学校に行けなくなったのは、小学校3年生の冬でした。

はじめはただの風邪だと思いましたが、数日後には起き上がれなくなり、部屋を閉めきって、怯えたように暮らすようになりました。学校はおろか、外出もできなくなりました。

病院の心身症外来で、起立性調節障害と、目で見て認識する力が弱いという診断を受けました。場の空気を読んだり、行間を読むことも苦手ということです。

入院して院内学級に通い、体調は少し良くなりました。退院後、支援学級に移り、様々な配慮をしていただきました。けれども通えませんでした。1年以上経って、本人にとって学校が恐怖でしかないことを親がやっと理解しました。

小学校には行かないことを決めて、その後は、フリースクールや放課後デイなど色々なところに行きました。けれどもどこに行っても娘の表情は硬いまま、見学だけで諦めるようなことが続きました。

知り合いの方から支援センターのことを教わり、ここならばと思い、連絡をとりました。初めは母のみが相談に行きました。森本先生にこれまでのことを聞いていただき、『娘に何を言っても、「知らん」「わからん」と、他人事のようにしていることが、とてももどかしい』と訴えました。

森本先生は、「行けるくらいなら、学校に行っている。それでも行けないから行っていない。」「学校に行けないことの辛さを、子どもは絶対に親には見せない。」と話してくださいました。子どもを責める気持ちが小さくなり、心が一気に軽くなりました。家に帰って、面談で聞いたいろいろなことを話すと、娘もうれしそうに「わかってくれる人もいるんやなあ」と言いました。

後日「あの先生のところ、いつ行くの？」と、娘から言ってきました。先生に連絡すると、家庭訪問に来てくださいました。5年生の1月でした。お話をして、娘が一瞬で心を開いたのがわかりました。先生が来られた日は鼻歌が出て、家の中が明るくなりました。

まもなくカフェに通うことになり、カフェには親が車で送り迎えをしました。カフェでは、初めはお話を中心でしたが、次第に学習も始まり、「大丈夫、できる」と、どんどん授業の日数が増えていきました。カフェでは、中学生の方とも知り合わせてもらいました。

しばらくして、娘が一人で動けることはとても大切だと、一人で自転車で通うよう勧めてもらいました。

娘は、外に出る時には、同級生に会ったらどうしよう、人に見られるのではない

かと、とても緊張するようです。先生はそのこともよくわかって下さっていました。初めて一人で自転車でカフェに通った日、先生に付き添っていただいたことが、大きな安心だったと思います。

自転車でカフェに行けるようになってからは、「一人でできる。お母さんは過保護過ぎ。」と言い、急に自信がついたようでした。

ある日、娘が「私も大学行けるんや。」とぼそっと言いました。それから、将来の夢を語るようになりました。しばらく考えもしなかったことでした。そして、「留学したいから、この中学校を受けたい」と言い出しました。森本先生と出会って、わずか1~2か月後のことです。

森本先生が受験のための学習計画を組んでくださいました。その中で、たくさんの先生に勉強を教えてくださいました。学校の先生だった人やボランティアの市民の方、大学生の方で、とてもバラエティーに富んだすばらしい先生方で、本当にありがたい出会いでした。

娘は人との関わり方が不器用で、対人関係で経験不足ですので、集団や同年代の方の中に入ることは難しいです。本人の様子に合わせて丁寧にすすめていただいたと感謝しています。

ずっと順調なわけではなく、夏休みの時期から2~3ヵ月全く通えなくなりました。体調も気持ちも戻らず、再度入院しました。その間も、先生は連絡をくださり、寄り添っていて下さいました。カンファレンスにも来ていただきました。

定期的な母との面談では、現状と目標の確認もありますが、母子の関係について、たくさん話していただいています。

『何でも子どもの言いなりの親』も、『管理しすぎる親』も、子どもにとってはものすごく不幸ということがわかりました。まだまだ私はのめりこみ過ぎるのですが、心に留めて、子どもに接するようになりました。

11月からは、受験科目に絞って、森本先生に家庭訪問でみていただきました。終盤は、先生の鬼の迫力に圧倒されながら、受験に備えました。おかげで「がんばった」という気持ちで試験に挑めました。合格発表の時、いつもクールな娘が、「やったー！」と声をあげました。本当にうれしかったのだと思います。

入学が決まった後も体調が悪い日が多く、すべてが解決したわけではありません。けれども、不安ながらも入学を楽しみに過ごしています。この先何があっても、「カフェがあるからなんとかなる」と本人は言っています。本当の意味での居場所を見つけたのだと思います。

学校に行かなくてもいいよと言ってくれる人はたくさんいますが、じゃあ学校に行かずにどうすればいいのか、その先どうなるのか、を示してくれる人はあまりいませんでした。娘には学習の支援が大きな力になりました。とはいえ小学校に3年弱しか行っていません。ゴールを見据えた方針のもと、手取り足取り教えて頂くこ

とが必要でした。普通の家庭教師では、経済的に無理でした。何より、娘と親が安心してついていけたのは、吹田子ども支援センターだったからだと思います。支援センターに出会えて娘は本当に幸運です。ありがとうございます。支援センターの活動が続き、私達のように救われる親子が少しでも増えるといいなと思います。(2019年3月)

※ 子どもカフェとは、センターの子どもの居場所兼学習室のことです。

※ 地元公立中学校に通った後、高校進学しました。また、当センターでの学習支援も継続しています。(2022年3月)

出会いに感謝！進路が開けた

…保護者(男子Mの母)

息子は、知的障がい者です。中学の進学も支援学校に通うか迷いましたが、将来のことを考えて地元の中学校に通いました。

中学三年生になり、進路を決める事が迫られた二学期、私も息子に真剣に向かい、進路の話をしました。

進路に対する本人の意思を聞くと、自分もみんなと同じような高校に行きたいと言ってきました。親として、息子の気持ちを大切にしたいと思うけれども、息子の願いが実現するとはなかなか思えず、頭を抱えながらも何とか息子の願いを実現させてやれないものかと考えました。

その話を担任の先生に伝えると、担任の先生は驚き、母親の私に「息子が普通の高校へ進学するには、ある程度の成績がないと、まず、受からない」と説明してくれました。

実際、息子の成績は、ほぼ内申のみの点数で、入試試験で他のお子様と同じような点数を取ることは考えられませんでした。

息子に入試に合格する学力をつけてくれる所を求めて、学習塾など心当たりの所を訪ねてはみたものの、どこも「受け入れます」との良い返事をいただけず、困っていました。

そうした時、知り合いの人から吹田子ども支援センターの連絡先を教えて頂き、電話で相談し、さっそく訪ねました。

森本先生とお会いし、その際に息子の気持ちや障がいの様子、今までの経過や志望校を説明しました。

必死に説明したものの、てっきり断りの返事が返ってくるものと思っていた私に「良いですよ。精一杯やりましょう。」の一言が返ってきました。驚き嬉しかった事を覚えています。

さっそく、森本先生の勉強が始まりました。先生が息子に教えて下さったのは、先ずは数学でした。森本先生の求めで、志望校の「過去問」を買い、持参させました。

息子は、人見知りが特に激しく、なかなか心を開かないのですが、息子の目線に合わせ、優しく励まし続けてくれる森本先生に、心を開き、学習しようとする気持ちが少しずつ生まれてきました。

しかし、初めのうちは、森本先生との学習は、およそ30分程度で終了でした。

というのも、息子は、集中して勉強をした経験がなかったので、気持ちが長く続かなかったのです。

毎日毎日、「過去問」から同じ問題を解くのですが、5分後には解き方を忘れ、なかなか定着することはありませんでした。

それなのに、森本先生は、毎日、息子がわかるようにと用紙に解き方を何回も何回も書き、丁寧に時間をかけて取り組んでくれました。

学習を始めて2ヶ月が過ぎた頃から、先生の情熱、熱心な教え方に息子の学習意欲が次第に出てきました。高校への行きたいという気持ちも高まり、集中力も持続してきたのです。

なんと、12月に入る頃、森本先生と毎日1時間30分の勉強をするようになりました。

森本先生から来る毎日の学習の様子を伝えるメールや電話、息子が持ち帰るメモ用紙から学習の様子が伝わり、息子の頑張りが実感できました。

そして2月、私立高校の入試試験を迎えました。合否発表の通知が自宅に届くまで重苦しく時間を過ごしていました。届きました。なんと！合格の文字が…。

森本先生に伝えると「よくやった！」と息子を褒めてくれました。嬉しかったです。

息子のように勉強のしたことのない子どもを一から丁寧に教えてくれる先生に出会えたことが本当に良かったと思っています。

私立高校を併願で合格したことを先生やクラスの人に伝えても、なかなか信用してもらえなかったらしく、次の日、親に内緒で合格通知を学校に持って行きました。

合格通知を手にした子ども達は、やっと息子が本当に合格したことを信じてくれたと当日のことを生き生きと話してくれました。

今までクラスではなじめていなかったのですが、その日を境にクラスの子と会話をすることが増えていきました。同じ受験生の仲間として接してくれたようです。

息子は、努力することの大事さを知り、頑張った自分に誇りを持つようになってきました。

親から先生にお願いし、その日以降の全ての科目をクラスの人と同じ教室で勉強す

ることになりました。

私立高校に合格したものの、子どもや私の一番進学させてやりたい学校は、ある公立高校でした。新たな目標に向かって一ヶ月、森本先生との毎日の勉強が続きました。面接練習も何度もしたとのことでした。

3月の公立高校の入試。その面接では、息子の自信が、声の大きさにあらわれ、親の私が今まで聞いたことのない大きな声で志望動機を面接官に伝えることが出来ました。

無事、公立高校にも受かり、念願の高校生になることが出来ました。

高校2年生となった現在も、息子は、毎日元気に通学し、吹田子ども支援センターでの森本先生の学習も、また、他のスタッフの方との学習も続いています。

本当に吹田子ども支援センターに出会わなければ、希望する高校に行けませんでしたし、息子自身の生き方も、変化がないままだったと思います。

息子の目線でのサポートしていただける場所に出会えて感謝しています。

本当にありがとうございました。(2017年3月)

※ 高校を卒業し、現在は職業訓練のため企業で働きながら学んでいます。

ここに来てよかった！

… 中学3年生男子H

ぼくが学校に行けなくなったのは、中学2年生の6月からです。勉強とクラブの両立がうまく出来ず、テストの点が悪くなっていきました。

そのストレスがたまり、朝起きられなくなっていき、クラブもやめ、学校へ行かなくなりました。

家にいる間は、昼夜逆転が続きずっとゲームばかりしていました。親にゲームの時間を制限するように厳しく言われても、ぼくは、親に反発していたので、何を言われても反抗ばかりしていました。親の気持ちは、ほとんど気にしていなかったです。その頃は学校に行けなくなったのは自分のせいではなく親のせいだと思っていました。

中学3年生になった7月頃、母がネットで「吹田子ども支援センター」を見つけ、ぼくに「行ってみないか」と言ってきました。「めんどくさいけど、まあ、いいや」と思ってなんとなくついて行きました。

吹田支援センターに行き、森本先生と話をしました。

行ってみると、勉強も森本先生との話も楽しかったので通うことにしました。最初は、1週間に1～2回、社会科と数学の勉強をしました。そこから、児玉先生の英語が週に2回、最後は理科も勉強しました。結局、学校には行かなかったけど、支援センタ

ーにはほぼ毎日通うことになり高校受験に向けてがんばりはじめていました。

もともとマンガやゲームで知った三国志や戦国時代・明治維新の人に興味があり、好きだった社会科は、森本先生と勉強していてもっと好きになり、今では一番点の取れる得意な教科になりました。

受験日が近づくにつれて、本当に高校に受かるのか、通えるのか不安になり、受験をあきらめようかと思った時もありました。その時に、理科を教えてくれていた大学生の先生に、「受かるし、通えるからがんばろう！」と励まされやる気が出ました。

2月には行きたかった高校に合格することができました。うれしかったです。

将来は、高校生活を楽しく過ごし、大学で好きな歴史の勉強をしたいです。

ここに来て、とても良かったです。

森本先生や児玉先生、大学生の先生や親にも感謝しています。(2021年3月)

※ 当センターでの学習支援を継続しています。

子の顔が毎日見られる嬉しさ

… 保護者(男子Yの母)

小学校6年生の秋頃、朝になると腹痛や頭痛を訴えるようになり行き渋りが始まったのです。

当時の私は不登校に対し、偏見や先入観があったので息子の腹痛や頭痛が心の疲れのサインだったことに気づくことができませんでした。

体調や様子の異変には気づいてましたので、心配し、担任やSSCに相談したり登校時に学校まで送ったりしていたものの、「学校へ行かない」という息子の選択肢は当時の私や主人には考えもおよびませんでした。

学校へなかなか行けない息子に対し、主人は「みんな行きたくなくても学校へ行って、やりたくなくても勉強しているんだから、家にいてテレビやゲームをするのはアカンやろ」と迫りました。

そして主人は、家からゲーム類やテレビも一切撤去してしまいました。

その後、小学校を卒業したので、中学校に入学すれば環境も変わるので、心機一転、学校生活が送れるようになるかと思い、撤去していたゲームを渡しました。

そう思っていたのも束の間、中学入学1週間で行けなくなってしまいました。

ゲームで昼夜が逆転し始めていたこともその一因になったようです。

行けなくなった頃は、私たちが仕事から帰ると家中の扉が締め切れ、電気も消されていました。

主人が引き籠れないようにと、息子の部屋の扉をはずしてしまいました。

すると、息子はベッドで布団を完全に覆って見られないようにし、食事もトイレもお風呂も、私たち夫婦が家にいる間は一切絶つといった事態になりました。

「息子は病んでしまったのではないか」と焦りや不安に苛まれる日々が4か月ほど続きました。

夫婦で話し合い、元のように息子の部屋の扉を戻し、息子の「安全地帯」を確保しました。

しばらくしたある日、部屋から「んーんー」とうなり声が聞こえてきたのでした。部屋の様子を見に行くと思子が腹痛で身もだえていたので、救急車を呼んで病院に運んでもらいました。

そこで4か月ぶりにガリガリに痩せた息子の姿をまじまじと見ました。長く話さなかったせいでしょう、声が擦れて出にくそうでしたが、この4か月間、どんな風に部屋で過ごしていたのかを聞くことができました。

その日から、少しずつ距離を近づけ、息子の関心事など話ができるようになってきました。

そうして1年が過ぎた中学2年生の夏の終わり頃、息子の口から「勉強や運動の遅れを取り戻したい」と言葉が初めて出てきました。

思った時にすぐ行動しなければ！っと思い、以前ママ友から教えてもらっていた「吹田子ども支援センター」に電話をすると、本当に唐突だったにもかかわらず森本先生は、すぐに面談の日程を組んでくださいました。

息子を連れてお会いした日のことは今でもはっきり覚えています。

笑顔もなく、目も泳いで合わせられずにいる息子に、森本先生は、ゆっくり優しく声掛けしてくださいました。

話の流れの中で、「よし！明日とりあえず来てみるか！一番勉強の成果が見られるのは数学やから数学からやってみるか？」と息子の背中をクイッと押されました。

私は心中「え！いきなり明日？」と思った矢先に息子の口からは「うん」と返事が出ていました。

そこからは、少しずつ少しずつ息子のペースに合わせて日にちを増やしたり、勉強以外で外に連れて行ってもらったり…。

息子は、引きこもりから人との関わりや対話が極度に苦手になっていたので、勉強支援の方を増やしていただき、次第に多くの人と接触することになりました。家庭でも、いつの日からか親子が毎日顔を合わせることや会話が増えていき、雑談の中での笑いも次第に増えていきました。

支援センターに行くだけ、1日に2時間の外出ですが、完全に自分の世界に引きこもっていた息子が外界に出るきっかけとなりました。支援センターに通う日が、週に2日、3日と増え、今では5日通えるようになりました。

息子の気持ちにも何度も波があり、順風満帆ではなかったのですが、そんな時はい

つも励ましていただいています。それに加えて親の私の一喜一憂する心のつぶやきにもメールを送ればすぐに返事をくださり支えていただいています。

そして、中学3年に進級した時に進路をどう選択するのかとという話になり、親としては息子はまったく学校へ行っていないのだから通信制高校しかないだろうと思っていました。

しかし森本先生は不登校児でもいろんな選択肢があることを教えて下さり、息子にも可能性はまだまだ沢山あって、現状を知ることから始めようと学力試験を受けてみることから提案していただき、2年ぶりに中学校の門をくぐりました。

学力試験の回を重ね、「R eスタートは全日制の高校」と本人の強い希望から志望校を決め、合格基準に達するようにと日夜支援センターの先生方にお世話になり、晴れて無事に全日制の志望校へ合格することができました。

こうやって毎日息子と顔を合わせ、たわいもない話ができることほど嬉しいことはありません。

「吹田子ども支援センター」のように、昼夜問わず、苦しい時に駆けつけ親身に相談にのって下さるボランティアのような支援はなかなかありませんし、このような支援は子どもたちの成長と繋がっているので区切りや終わりがありません。

あの時の森本先生との出会いがなければ今のこの状態はなかったでしょう。

本当に感謝しております。そして、これからもお世話になることが出てくると思います。よろしくお願いします。(2020年3月)

これからも息子の力を信じて

… 保護者 (中3男子Hの父)

今回、吹田子ども支援センターにお世話になるきっかけとなったのは、当時中学2年生から不登校になった息子の居場所を見つけようとホームページで見たのが始まりでした。

中学1年3学期あたりからお腹が痛い、頭が痛い和学校を度々休みがちになり、中学2年生のゴールデンウィーク明けからパッタリと行けなくなってしまいました。

いじめを受けていた訳でもなく、本人にも我々両親にもその理由がわからず、またどう対処すれば良いのか悶々とした日々を過ごしました。

あらゆる事を調べてカウンセリングに行ったり、不登校親の会に参加したりと、何とか学校に戻そうと必死でした。

学校にいけない事を息子自身が自分を責めていました。

一日中家にこもり、寝て起きてはゲームの繰り返し昼夜逆転、親子でイライラと不

安の日々でした。

そんな中、学校は無理に戻る必要はない。生きていてくれるだけでありがたいことなんだと、思い直し今までの子育てを振り返りました。

息子の話に耳を傾けず、我々の不安から傲慢な態度で息子に接している自分に気づきました。

息子が不登校になった原因は親と子の向き合い方にあるのではないかと。

そう思い始めていました。

学校に通えなくても、どこか外の世界でつながりは必要だと思い、居場所を見つけようと辿り着いたのが、吹田子ども支援センターのホームページでした。

そこには、通っていらっしやっった親子のメッセージ、穏やかな顔で写っていらっしやる森本先生の顔を眺めて、こちらに相談してみようと、夫婦で話し合いお電話させていただきました。

すぐにお時間を作っていただき、まずは、夫婦で森本先生にお会いしお話をさせていただきました。来週から本人が来れそうなら学習支援をして行きましょうと提案していただき、息子も行ってみると言い、中学3年の7月からスタートしました。

週に2回英語と数学を習うことになり、森本先生やスタッフの皆様のお力添えにより、今までやっていなかった学習を教えてくださいました。時には元気がなく休みがちになることもありました。森本先生、スタッフの皆様はいつも息子の気持ちに寄り添って頂きました。

いよいよ受験シーズンに突入し、息子は当初通信制に行くと言っていましたが、自分がどうなりたいのかを考え、私立高校に受験したい思いが次第に強くなり、希望高校への勉強を中心に残り数か月は教えていただきました。

希望高校への受験はハードルが高く、これまで勉強をしてこなかった息子にとって、非常に厳しい挑戦となりました。

時には、心が折れそうになり、休みがちになる息子に対し、森本先生他スタッフの皆様は、決して強制せず、息子の気持ちを理解し支えていただき、息子のやる気を引き出していただきました。

我々親は、やきもきするばかりでしたが、息子の前向きになっていく気持ちを尊重し、できることは後押しし家族で見守るように努めました。

合格通知を受け取った日は、家族全員で泣いて喜びました。

まだ高校生活は始まっていませんが、合格を機に息子は夢を語り、生き生きし始めています。

まだまだ安心できませんが、息子の力を信じようと思います。

私たち夫婦は子供の不登校をきっかけに、生きる意味、家族の在り方、夫婦の在り方、人とのつながり、多くのことを学びました。

森本先生やスタッフの皆様にお会いできたことは、息子にとって、私たち家族にと

って、一生の宝物です。

感謝しかありません。

家族だけでは、切り抜けることができない支援をしていただきました。

本当にありがとうございました。

(2021年3月)

何事にも挑戦しようと思いました！

… 中学3年生女M

私は、学校が嫌になって、中学3年生という受験にとって一番大切な時期に不登校になり、勉強しなくなっていました。

全然勉強していなくて家にずっといた9月頃、お母さんが「吹田子ども支援センター」を見つけてくれました。お母さんに見せてもらったパンフレットを見てみると、韓国人の大学生の先生が英語を教えていると書いてありました。

私はKPOPや韓国が好きだったから、直ぐに「行きたい」と思いました。大学生のその先生は、ユジン先生で、会ってみたらとても話しやすく、それからずっと通うことになりました。支援センターでは、ユジン先生の英語と森本先生の数学の勉強をしました。楽しく行っていた時もありましたが、がんばる気持ちがなくなり行かない日もありました。

だけど、志望校に入るためには、学習しよう思い直して行くことにしました。ちゃんと通っているとどんどんわかるようになりました。

休んでいた学校にも別室ではあったけど行けるようになり、卒業の2ヶ月前からは、教室に入れるようになり、今は残り少ない中学校での時間を過ごせています。

志望校にも無事合格出来たので森本先生やユジンさん(大学生の先生)には、とても感謝しています。

今までは、大学に進学しようと思っていなかったけど、ユジンさんを見て、自分も大学生になったら吹田子ども支援センターでお手伝い出来たら良いなと思っています。(2021年3月)

※ センターでの学習支援を継続しています。



一筋の光が見えてきました！

… 追い詰められていた娘と私 …

… 保護者 (中1女子Kの母)

現在中学1年生の娘が、不登校児になりもうすぐ2年目を迎えます。娘は、小学校4年生の頃までは、明るく友達思いで、成績も優秀な方でした。パソコン教室に通っても、全て大人よりも早いスピードで習得しました。しかし、小学生高学年になった頃より次第に朝が起きられなくなり、学校を休みがちになりました。就寝時間も乱れ出して、過眠状態が訪れました。ただし、中学に入学した頃には、娘にまだ登校意欲があり、テニス部に入りたい、試合に出たいと言いました。中学校に入り環境が変われば好転するかと胸を躍らせてラケットを買いに行きました。毎朝、娘の友達はそれでも迎えに来てくれました。でも、それらの期待は数週間で壊れてしまいました。「みんな、待ってるよ。今日は短時間だよ」と声をかけても娘は起きません。毎朝、学校に「すいません。今日も起きられません」と欠席連絡の電話するのが、苦痛になりました。毎朝、お弁当を作り、仕事に出かけて帰宅してもお弁当はそのまま。ベッドに眠る娘。どうしたら良いのかわからないまま、沢山の目覚まし時計を用意したり、寝具を工夫してみたり、入浴剤を工夫してみたり、カーテンを開けたり、窓を開けたり、無理に布団をはがし叩いて起こしてみたり…。

どうしても、娘の睡眠時間はどんどん長くなり、娘は「今日も起きられなかった」と泣くばかり。「私も普通に学校に行きたかった」と壁を叩いたり、声をあげて泣いていました。

次第に娘の睡眠障害はひどくなり1日14時間眠る日もありました。眠る娘を見ながらこのまま目を開けてくれなければどうしようかと涙が止まらない日もありました。

今までの娘との生活が、全て音を立てて壊れていく感じでした。

心療内科を訪ね、医師に相談すると概日リズム障害、社会不安障害、期鬱状態と診断されました。医師の診断があり少し落ち着きはしました。

しかし、診断されても娘や親がこれからどのように日々過ごしていけばよいのか悩みがなくなるわけではなく、娘の不安、私の苦しみに寄り添って具体的に助言してくれる人を求めています。

そのような頃、昨年9月、偶然、吹田市役所で「吹田子ども支援センター」のパンフレットを手にして、すぐに子ども支援センターに電話しました。

電話に出られた森本先生の「お母さん、来て話を聞かせてください。」との返事に、吹田子ども支援センターを訪ね、娘の様子を伝え、誰にも打ち明ける事が出来なかった胸の内を話しました。

たくさんのアドバイスをいただき「必ず、好転する日が来ますよ」と、話してくれた森本先生のお言葉に初めて希望の一筋の光が見えました。

まもなくして、娘は知らない場所に戸惑いながらも吹田子ども支援センターに通うことになりました。娘の体調や親の都合に合わせて、夜間の時間帯に時間をとっていただき、私が車で送迎しました。

最初は、女子大生スタッフの方の支援を受けました。森本先生が、娘にはお姉さんの様な大学生の方が話しやすいだろうとの配慮からでした。そのスタッフの大学生は、中学生の時から不登校で支援センターに通っていたそうです。「私も中学、全然行けなかったよー。でも、今、大学生」その言葉に、娘は大きな安堵感があったようです。

「お母さん、私が行ける高校もあるのかな。私も大人になって働くことが出来るのかな」私は、初めて娘に言いました。

「もう、学校に行かなくていいよー、楽しい所だけ行こう」久しぶりに娘が笑いました。森本先生に出会えて色々な事が見えてきました。

その後、森本先生や児玉先生との学習も始まりました。教え子の方のお店でクッキー作りをしたり、森本先生と一緒にテニスをするもありました。

私は今までもずっと、学生の本業は、通学だと思っていました。「学校は、宿題は、塾は、テストは、クラブは、友達はどうするの？」と毎日娘にせまり、それらのことで娘も自分も追い詰めていました。

でも今は、子どもも疲れたら休憩してもいいんだと思うようになりました。娘のような子どもには、学校、家庭、そして吹田子ども支援センターのようなもう1つの居場所が必要だと思っています。

娘は、吹田子ども支援センターに通い半年が過ぎました。今では、一人で外出し自転車に乗って一人で支援センターに通うことも出来る様になりました。

娘は、ずいぶん明るくなり、親子の会話も増え、私の心が楽になりました。あの時、吹田子ども支援センターに出会わなかったら娘はひきこもりになっていたと思います。

山有り谷ありの毎日で、一喜一憂していますが、これからも支援センターの方々に助けていただきながら娘を支えていきます。(2022年1月)

わが子が 一步踏み出す場所に

… 保護者 (女子Rの母)

わが子が学校に行くことを辛そうにしていたり、イライラして今までの様子と違うなど感じたのは、中学2年生の5月くらいでした。

担任の先生にも相談しましたが、学校では特に変わった様子がないとのことでした。

しかし、明らかに登校前にため息をついていたり、遅刻していく日も増え、体調の悪さを訴えるようになり、休みがちになりました。ここから、欠席の期間が長くなり、結局中学生生活が終わるまで、学校に行かなくなりました。

なんとか登校してもらおうと転校も2回ほどしましたが、どこも続かず、体調の悪さを訴えるばかりでどんどん社会と離れて閉じこもるようになりました。

学校以外の相談場所もなく、途方に暮れていたとき、内科のお医者さんに診てもらうことにやっと同意したので、わが子を連れていき、そこから別の病院を経由して、吹田こども支援センターのことを知りました。

といっても、どんなところかわからない機関なので、親子ともためらいながらでした。

森本先生はすぐに時間を作ってください、親身に話を聞いてくださりました。社会と離れて一人でいたわが子が森本先生の問いかけに、言葉を選びながら、話す姿に涙ができました。

「いつでも来ていいし、いつでも帰っていいよ」と森本先生が、優しく話してくださったことが、《学校に行きたくても行けない。行かなくてはいけないとわかっているけどいけない》わが子にとって、一步を踏み出す場所になりました。

その日から少しずつ、支援センターに顔をだすようになりました。笑顔が増え、支援センターであった話を楽しそうにする姿は以前の時の様子と変わらなくなってきました。

毎日支援センターに通えるようになり、次に迫ってきた問題は高校受験でした。現実から逃避しているわが子に支援センターのスタッフの方は、それぞれの立場で励ましたり、耳の痛い話をしたり、進学に必要な情報を集めてくださったりしました。

時には心を鬼にして、子どものために、突き放して自分で考える時間を持たせたりもしていただきました。個々に合わせた支援を考えて取り組み、思春期のややこしい子どもに向き合ってくださいました。

わが子は現在、高校2年生になり、毎日高校に通っています。将来のことも夢を持つようになり、今は次の大学受験に向けて勉強したり、クラブ活動もがんばっています。中学時代にできなかったことを高校生活の中で楽しんでいる姿を見て嬉しく思っています。

3年前、どうしていいかわからず、困っていたことを考えると、今は、長いトンネルを抜け出せたところですよ。もう少し早く支援センターの存在を知っていたら、無駄な転校を繰り返すことなく、子どもの心の傷もここまで深くなることはなかったのでは？と今になっては思います。

私のようにこういう支援をされている民間機関があることを知らない方はたくさんいるでしょう。

今も困っておられる親子にこの吹田こども支援センターのことを少しでも早く知っていただいて、長くて暗いトンネルからでる、一筋の明かりを見つけられることを祈ります。

最後になりましたが、森本先生はじめ、吹田こども支援センターのスタッフの方々にはお礼を言い尽くせないほど感謝していることを付け加えさせていただきます。

(2015年3月)

まさか…突然の不登校

… 保護者 (中3女子Mの母)

コロナで中二の終わり頃から学校が休校になり、休校明けても中二のクラスのまま学校生活を送っていましたが、6月の3年生のクラス変えの日に「今日には行きたくない」と言いました。

「初日だから行った方がいいんじゃない？」と言いましたが、今までは休みたいと言った事もなかったので、もしかしたら体調が悪いのかとも思い休ませる事にしました。

次の日は無事登校しましたが、クラス替えて「仲の良かったお友達と一緒にのクラスになる事が出来なかった」と残念そうに言っていました。そして、次の日から行き渋りが始まりました。

「少し嫌でも行かないと新しい友達も出来ないから、最初は嫌でも行きなさい」と無理やり行かせました。ドンドン行きたくない気持ちが大きくなって朝からイヤイヤが始まりで何度も大喧嘩にもなりました。親子関係も悪化しました。それでも、私が校門の前までついて行って昼頃に行ったりする日もありました。

その頃は塾だけにはかろうじて行っていたのですが、夏休み前には、塾にも行かなくなり不登校になりました。夏休みは私が「学校に行きなさい」と言わないので子どももリラックスして親子の関係も少しはマシでした。

夏休みの終わり頃、「いっぱい休んだから朝から無理でも遅刻してもいいから頑張っって行こうね」と約束しましたが、夏休み明けの初日に朝からイヤイヤが始まって、

とうとう「今日だけは休ませて、明日から絶対行くから」と泣いて訴えかけてくるので私もその日は諦めました、でも、次の日もまた次の日も行きませんでした。完全に行かなくなってしまいました。

次第に親子関係も最悪の状態になりました。それでも高校には行きたいと思う気持ちはあったので「それなら勉強しないといけない」と子どもに迫り、どこか勉強が出来る場所はないかと探していたところ、「吹田子ども支援センター」にたどり着きました。

最初、私一人で森本先生に相談に行きました。「高校に行きたい気持ちがあるならまだ大丈夫、ここで勉強しよう」と言って下さいました。家に帰ってすぐ、「学校でも塾でもないけど個別指導塾みたいな個別で勉強を教えてくれるところがあるよ、行ってみて嫌だったら行かなくてもいいから一度行ってみる？」と言ってみました。

子ども自身も高校に行きたいけど学校には行けないので余計ストレスを抱えていたようで何かにすがれる気持ちもあったと思います。意外と素直に「行ってみる」と言ってくれました。それが中三の9月でした。

いざ行き始めても気持ちが乗らない日は行かなかつたりと一筋縄にはいきませんでした。最初は週に二回からでしたが次の週は一回も行かなかつたり…。でも、そんな子にも森本先生は根気よく付き合っていて少しずつ勉強が身について来ました。

最初から「すごく解りやすい」とは言っていましたが、スタートが中一のレベルなので高校受験まで間に合うか気が気ではありませんでした。

年が明けてテストだけ受けに学校に行くことができ、そこから別室登校が徐々に出来るようになりました。勉強もわかるようになってきたので自信もついて前向きな気持ちになったのかもしれませんが、それまでになったのも森本先生や英語を教えて下さった大学生のお姉さん先生に学習に行く度に温かく励ましてもらい、いつも元気をもらっていたように思います。

志望校は公立高校ですが、その前に私立高校の受験がありました、第一志望が公立高校なので私立高校を専願にする事はできません。「私立合格はもしかしたら難しいかもしれない」とまでその頃は言われていました。

1月に終わり頃、クラスのお友達が別室に登校していると気づき声を掛けに来てくれて、「ちょっとだけでも教室に行ってみない」と誘ってくれました。そこから今まであんなに嫌がっていたのに教室に登校出来るようになりました。

学校に行けるようになりましたが、相変わらず朝は中々起きるのが苦手で、私立受験の日まで朝起きれるかとても心配でした。

でも私立高校受験の頃になると、支援センターでの学習に毎日のように行って凄く速度で実力をつけていき「もう私立は絶対受かる大丈夫」と言ってもらえる程になりました。

私立校受験が終わって「結構出来た」と言っていたのでほっとしました。合格発表の速達郵便を開封する時は二人でドキドキしました。無事合格しました。安心したのか泣いていました。よく頑張ったなど思いました。その後、第一志望の公立高校にも合格しました。

まだまだ朝起きるのが苦手な高校生になってちゃんと起きられるか不安ですが、大学にも行ってみたいと思う程になったので頑張るのではないかと思います。本人も私も「吹田子ども支援センター」に巡り合っていなかったら、いったいどうなっていたのかと思います。

課題は沢山ありますが「一つ乗り越えたんだよ」と森本先生に言っていただいて、また励ましていただいてとても感謝しています。大学生のお姉さん先生は、子どもと同じ目線になって、いつも楽しくリラックスおしゃべりしてくださり、おかげで子どもは英語まで好きになったようです。本当に感謝しています。ありがとうございました。(2021年3月)

息子の心と学習の支えに

… 保護者 (男子Sの母)

息子が小学5年生になった頃から、学校を休む事が増えていきました。

息子は、市立小学校に通っていましたが、軽度の発達障害があり支援学級でも勉強をしていました。

普通学級でお友達もいましたが、年齢を重ねるごとにお友達についていけないことも増えていき、理解力の弱さから悪口を言われる事もあったようです。

そんな毎日に息子は、どんどん元気をなくし、持病のアトピー性皮膚炎も悪化していったのです。アトピーで顔中が真っ赤に腫れ上がり、一週間学校を休むことも何度もありました。そんな息子の様子を目にしながらも「学校だけは休まないように」と息子に言い続けていました。毎朝のように、息子を叱りながら学校にいかせ、時には主人が手をあげることもありました。その頃の私たち夫婦は息子の心に寄り添う余裕はなく、自分の親としての面子を守ることで必死だったのだと思います。

6年生の頃には、週の半分学校を休むようになり、ある日のこと、息子をいつも通り無理やり学校へと送り出すと、学校には行っていないことがわかったのです。夫婦で必死に探す公園で隠れている息子を見つけ、息子の顔を見て「この子を守るのは親しかいない」とハッと気づいたのでした。

その後、本人の希望もあり地元の市立中学ではなく、支援学校の中学部に進学することにしました。

しかし、心が元気になっていないこともあって、入学後も「思っていた学校じゃない」「遊びたい友達がいらない」「勉強もしたい」と言いながら時より学校を休みたがるようになったのです。

「これ以上どうしたらいいのか…無理にでも市立中学に行かすべきだったのか…」と困り果てた時、お友達から森本先生のことを教えてもらったのです。

半信半疑で森本先生に連絡すると、即都合を付けて下さり、これまでの経緯や息子の話を聞いてくださいました。森本先生は、息子の気持ちに心から共感してく下さり、私のことも励ましてくださり、救ってくれる場所があるのだと思うと自然に涙が出てきました。

森本先生は「すぐに息子さんを連れておいで」と言って下さいました。初めての対面では、息子は緊張していましたが、森本先生とゲームをしながら話をすることで、すぐに森本先生の事が大好きになったのです。そこから週に1・2回子どもカフェにお世話になっています。

森本先生は無理に勉強をするのではなく、その日その日の息子の様子を見ながら工夫されています。息子とライン交換をして毎日やり取りなどもしてく下さり、そのお陰様で息子の文章力も自然に成長していきました。学習面でも、苦手な教科だとすぐに忘れてしまう息子に対して、何度も何度も繰り返し教えて下さり、苦手な教科は楽しみながら覚えていけるようにと、常に創意工夫して下さっています。

そして出来たことは一緒に喜んでくれる森本先生のお陰様で、息子は「ぼくも頑張ればできるんだ」と少しずつ自分に自信を持てるようになってきました。今では「苦手な勉強を頑張りたい」と言って学校にも漢字の自学ノートを持参し、お昼休みなどに取り組んでいるそうです。

そして、学習面と比例するように心もどんどん前向きに元気になっていきました。以前は家の近所にお友達がいなくて寂しそうにしていたのですが、今では「僕には森本先生がいるんだ」と言って自信満々の表情で逞しさを感じるようになってきました。

数年前には想像出来なかった光景に親として嬉しい気持ちの毎日です。そして、息子の学習と心の支えになって下さっている森本先生には感謝の気持ちで一杯です。

森本先生、これからも親子共々お世話になりますが、宜しくお願い致します。(2020年3月)

※ センターでの学習支援を継続しています。



私が勇気をもらった場所

…人に寄り添う道を歩みたい…

高校2年生女子M

私が支援センターに通い始めたのは、中学3年生の頃です。私は友達や同級生の話題やノリについていけず、周囲の話し声が怖くなって、学校に行けなくなりました。家では、朝起きて、ご飯食べて、本を読んで、寝るをくりかえす毎日でした。

そんな時、母親から「支援センターに行ってみない？」とすすめられて、このまま家に居続けてどうするのかと悩んでいたこともあって行ってみることにしました。

最初のうちは、隣の机で勉強している人たちの会話も少し怖かったです。そんな私に、英語を教えてくれていた大学生はしんどくなった時のサインを作ってくれました。それは本当にたまにしか使わなかったけど、「しんどい」と言うのが苦手だった私にとってとても安心できるものでした。

しんどい時はそこで止めて、大丈夫な時は英語の勉強をしてをくり返していたら、少しずつ周りも怖くなくなって、学校にもたまに勇気を出して行くようになりました。

支援センターに行くようになってからの学校での初めてのテストでは、英語の点数が一気に上がっていて、とても嬉しかったのを覚えています。それから勉強が楽しくなって、数学や理科、社会も教えてもらうようになりました。

高校の受験の時も、学校に行っていなかった分、成績が低くて、自信がなかった私を毎回毎回励まし、一生懸命教えてくれたおかげで、希望する高校に合格することができました。

入学してからも、いろいろあって学校を休んでしまったけれど、今も支援センターで数学や理科、英語を教えてもらっています。

将来の職業については悩み中だけれど、支援センターに通い始めて思っている「人に寄り添いたい」という気持ちを活かせる道に進みたいので、今は大学受験に向けて勉強をがんばっています。

合格できたら、そこからは私がしてもらったみたいに、支援センターでの仕事や支援センターに来る子たちのお手伝いがしたいです。(2020年3月)

(追記)

この吹田支援センターとスタッフさんたちのおかげで、高校を卒業し、大学に合格することができました。

進路を考え出した時、「人に寄り添いたい」という気持ちは変わらずありましたが、何になりたいのか、何がしたいのかということがはっきりしなかった私は、その頃、

数学や生物を教えてくれていたセンターの先生に、何度も相談していました。

「こんな仕事がある。」「こういうことも面白い。」といろんなことを教えてくれて、とても心強かったことを覚えています。

あいかわらず英語が苦手だったため、英語の支援もお願いして、受験勉強や英検の取得も支えてもらいました。

新型コロナウイルスの関係で、支援センターが休止となった時にも、こまめに連絡をくれました。勉強のモチベーションが上がらない時や少しナイーブになっている時など、何度も助けてくれました。

数学を教えてくれていた先生も新型コロナの関係で途中で変わってしまって、少し寂しかったのですが、森本先生が次に紹介してくれた数学の先生もすごくいい人で、いろいろな話を聞いてくれたし、わからないことは何度も教えてくれました。前の先生もこまめに連絡をくれたりして、とてもうれしかったです。

勉強してもなかなか点数につながらず、公募制推薦に落ちた時も、センターの先生たちに励ましてもらい、前を向かせてもらいました。本当に心の支えでした。そこから先も何度もくじけそうになりましたが、そのたびに先生たちに支えてもらいました。

行きたかった大学には合格出来ませんでしたが、それでも他の行きたい大学に合格することができました。先生方のおかげです。本当に感謝しかありません。

高校を卒業し、大学への入学も決まった今、森本先生から声をかけていただき、今度からはスタッフとしてセンターに関わらせてもらえることになりました。これからは、私がしてもらったように、勉強やいろいろなことを教えることで、いろいろな思いを抱えている子たちに寄り添ってあげられるように頑張りたいです。(2021年3月)

※ 2021年3月よりスタッフとして子ども達に学習支援をしています。

先生方の支えと助言に感謝

…保護者(高2女子Mの母)

娘が中学生の時、不登校になり、中学校のソーシャルワーカーさんからセンターを紹介されました。森本先生から話を聞かせていただき、娘に勧めたところ、「行きたい。」と言いましたので、通わせてもらうようになりました。

それでも不登校が続きながら高校受験が近づき、志望校もなかなか決まらず行きたいところはないけどセンターで勉強は続けているという状況でした。

どうにか志望校が決まったのは出願間近のことで、センターでの勉強がなければ、危なかったと思います。

高校に入学し、親としてホッとしたのも束の間で、人間関係の問題や、体調の問題で、学校にはあまり行かずセンターで勉強し、テストだけ受けに行くという日々にな

りました。

最後は単位取得が危ない科目だけ出席するという日々で、本人もつらかっただろうし、親としてもどうしようもできない状況でした。

その間、私には言いにくいことも、センターの先生方にはいろいろ話していたみたいです。

高校2年生になってから、なぜか学校を休むことが減り、センターにも熱心に通うという日々が続きました。そのころ娘は「高校卒業資格をとる。」が口癖で、大学ではなく、専門学校を目指していました。

高校2年生の後半から、目標が大学変わり、一生懸命勉強をしていましたが、志望校がなかなかはっきりせず、親としてアドバイスはできませんでした。

本格的に志望校が決まったのは高校3年生の夏で、その間センターの先生方に何度も相談していたみたいです。志望校が決まってからは、私はただ見守るという態勢をとっていました。

公募推薦に落ちてからはそれまで以上に必死になって、勉学に励むようになりました。センターの先生方の支え、アドバイスがあの子を前に向かせたのだと思います。センターが安心して話ができる所、ホッとする所であったことは親としてとてもありがたいことでした。共通テストや一般入試にもすごく前向きにトライできていました。

センターの先生方の支えがなければ、大学合格ということにはなかったと思います。親として何をしたかと考えれば、ただ見守る、愚痴を聞くぐらいでした。センターの先生方にはとても感謝しております。(2021年3月)

傷つき怯える息子の助けを求めて

…保護者(男子Tの母)

とうとう恐れていたことが現実になりました。

それは、息子が中学1年生の12月のある日、学校に行けなくなったのです。

「誰か助けて!」…私は、気がつけば以前にネット検索で見つけた「吹田子ども支援センター」へ電話をかけていました。

それが、森本先生との初めての出会いでした。

必死の余り、名前も名乗らず話し始めたにもかかわらず、しっかりと受け止め聴いて下さり、「今からセンターに来られますか」とのお話に、私達親子は、その日のうちにセンターの扉を開けました。

周りのすべてに絶望し、いますぐ差しのべてくれる手が欲しかったのです。

それから約1年間、学習支援や不登校時の居場所としてお世話になりました。

みんなそれぞれに事情も理由も違い、不登校のかたちもさまざまだと思いますが、息子の場合は、はっきりとした原因があり中学1年生の10月頃から「行きしぶり」が出はじめておりすでに精神的に追いつめられていたのです。

センターに通い始めた頃は、息子は、傷つき、身も心もボロボロの状態でした。同じ学校の中学生に出会うことに怯え、いつもびくびくし、家から出なくなっていたのですが、きちんと話を聴いてくれる森本先生のもとへは出かけていきました。

学習面でも凸凹があり、集中力や気分にもムラがある息子にとことん根気強く向き合い、時には良き相談相手になっていただくうち、カチカチに固まっていた心が少しずつやわらかくなって、精神的に落ち着きを取り戻していきました。

そのうち学校へ通えるようになり、1年後には、高校へ行くことを諦めていた息子が高校入試という目標に向かってしっかり歩み始めるまでになりました。

現在、第一希望の高校に合格して、毎日とても充実した生活をおくっています。

ふり返ると、学校に行けなくなったあの日、家族以外に「助けて!」と言える勇氣を持ち、あのタイミングで迷わず電話をかけたこと、すぐに行動したこと、先生方の話や提案に耳を傾け、受け入れて対応できたこと、そして、何かあった時すぐに話せる親子関係であったこと等が良い方向に繋がった条件だったと思います。

これらの条件は、吹田子ども支援センターが開設されていたからこそそろった事で、もしも森本先生に出会っていなければ息子は今でも自分の部屋から出ることはなかったかもしれません。

息子にかかわってくださったセンターのすべてのみなさん、本当にありがとうございました。今でも、毎日、毎日、感謝しております。(2017年3月)

(追記) あれから3年…息子は今

…保護者(男子Tの母)

あれから3年経ったんだなあ…春を迎え、遠目に桜を見ては、支援センターでお世話になっていた壮絶な日々を思い出しています。

支援センターでお世話になっていた頃……それはそれは泥沼の中 親子で七転八倒の壮絶な日々でした。

そんな息子がその後どうなったかを、話したいと思います。

息子は学習面に凸凹があり、こだわりも特性もあり、そのことで学校生活の中で壮絶ないじめを受け不登校になりました。

支援センターと出会い、心に生きる灯をともした息子が新天地(進路)に選んだのが全寮制の農業高校でした。

進路選択を目前にした息子の中学3年生の秋から、私はどこかに必ず息子の居場所があるはずだと信じ、全国規模で進路をさがしました。場合によっては引越す覚悟

でした。

すると息子の心にビビッと響く学校に出会ったのです。

不登校の中学3年生が家を出て寮に入ることを選ぶなんて…と驚かれるかも知れませんが 本人いわく『自分のレッテルが何もない場所で0から人生をやり直したかった』と言っていました。

3年間の寮生活、もしかしたら逃げ帰って来るかもいつも不安な親心をよそに息子はというと、まるで水を得た魚のように生き生きと生活し一生の「友」も得ることができました。もちろん3年間辛いこと苦しいことも多々ありました。その度に互いに傷つけ、傷つけられ、削り、削られ、卒業式には皆丸く磨き上げられた光輝く原石のように眩しく見えました。

現在18歳の息子は本格的に酪農を学ぶため、この春から農業大学校に進学しました寮生活を送っています。今後も自分が持っている特性(凸凹)を息子自身が理解し付き合い続けなければいけないという課題はありますが…

森本先生の教え通り不必要な手助けは我慢してそっと見守っていこうと思います。

あれから3年、もう一度振り返り思うことは私自身意識してきたことですが、心配事、愚痴などどんな些細な事でも話せる親子関係を築いていこうとしてきた事です。それを幼児期から続けてくれたことです。

いざという時「助けて」と言える吹田子ども支援センターの存在があったことです。息子には、昼夜を問わず必死になって本気で向き合ってくれた先生方がいたこと。そのことが息子が「生きる」ことに希望を持ち、人生を「再スタート」させた原点になったと思います。

母親の私には、親のプライドなんてかなぐり捨てて、本気で子どもと向き合うことと教えてもらったこと。何十年も生きてきて誰も教えてくれなかったことをたくさん知りました。

この2つが、私たち親子が闇のトンネルから抜け出せた鍵があり、支援センターが息子の人生再スタートの原点だと確信をもって言える理由です。

この先も支援センターと出会い、もう一度顔を上げ前を向くことができるお子さんが一人でも増えることを願ってやみません。

最後に息子からの一言

『一人前に自立したら 先生に会いに行くよ』

先生方、どうぞ気長にお待ちくださいませ。(2020年3月)

※ 2021年3月、農業大学校を卒業しました。2021年4月より農業関係の仕事に就いています。

長く苦しい日々を過ごして

…保護者（男子Sの母）

「もう学校に無理に行かそうとするのはやめよう。」と毎日学校に行き渋る子どもと格闘していた私はようやく決断しました。

今、高校2年生になる子どもは、小学6年から中学3年までの4年間、不登校でした。子どもには何か特別な理由があったわけではないものの、小学3年生のころから時々学校に行き渋りがあり、人と関わる事や環境や状況の変化が苦手なところがありました。

しかし、その頃の私にはまさに青天の霹靂でした。

子どもの気持ちはいつも不安定で生活リズムは崩れ、勉強は手につかず、テレビやゲームで暇をつぶし、母子で過ごす不安な時間が果てしなく続きました。

自分の子どもが学校に行けなくなるなんて到底信じられず、いつになったら教室に行けるようになるんだろう、でもどうすればいいんだろうと、途方に暮れる毎日でした。そんな子どもを親として受け入れることは本当に難しく、長く苦しい日々が続きました。

それでも私は子どもの現状を理解し、少しでもこの状態が何とかならないかと思い、ありとあらゆる所で相談したり、手当たり次第、本で調べたりしました。そういう手探りの状態が長く続き、試行錯誤をしながらも子どもが安心できる場所や一緒に居てもらえる人たちを探し続けた結果、少しずつ図書館や学校の相談室、通級指導教室、適応指導教室などで過ごすことができるようになりました。

しかし改善は見られたものの、子どもの調子には好不調の波があり、外出することがとても難しくなることも度々ありました。

そんな折、子どもが中学2年の秋に吹田子ども支援センターの講演会があることを小学校時代の先生から紹介して頂き、参加する機会に恵まれました。

そこで吹田子ども支援センターの活動を知り、早速、森本先生と津田先生に相談に乗って頂きました。お話をしているうちに森本先生とは以前子どものことでご縁があったこともわかり、子どもを連れて来ることにしました。

その頃の子どもは朝起きられない状態だったので、不規則な生活を少しでも改善するために津田先生に週一回、午前中の家庭訪問をお願いしました。その後、次第に津田先生に心を開いていき、一人でも吹田子ども支援センターへ訪問できるようになりました。

このセンターでは、津田先生と話をしたり、好きなパソコンやゲームをさせてもらったり、森本先生やスタッフの方たちとも話をし、同世代の生徒の人たちとも徐々に関わるできるようになっていきました。

そのうち午前と夕方に子どもカフェという子ども同士の交流の場に通うようになり、安心して過ごすことのできる、なくてはならない場所になっていきました。

津田先生は子どもに対して熱意を持って親身に向き合い、子どもの先を見据えて今何が必要かを常に考えながら接して下さいました。主人共々私達に対して的確なアドバイスも下さって、親にとっても大きな支えとなって下さいました。

吹田子ども支援センターでの皆との関わりを通して子どももゆっくりと成長していき、吹田子ども支援センターの友達と高校のオープンスクールに行くことができた、試験自体経験がなかったにもかかわらず模擬試験を受けることができるまでになりました。また、友達とちょっとした口げんかもしました。

子どもにとっては、これらの経験が非常に大きく、そこが単なる居場所ではなく、いつも自分を受け入れてくれる先生と仲間がいる場所となり、自信と希望につながっていったのだと思います。おかげで全く見えなかった高校進学への道筋も見えてきました。

子どもは、4年間、義務教育の流れからは離れてしまいましたが、本当に多くの人たちに支えて頂きながら成長することができました。

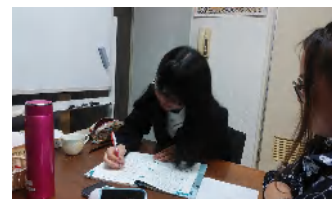
中でも津田先生には何かと連絡し、今でも相談に乗って頂きながら学校生活を送っています。そして、高校の先生方や今までお世話になった先生方にも支えて頂き、まだまだ課題はあるものの、少しずつ自分でできることを増やしていっています。

最近子どもが、「自分はたとえ中学に行けていたとしてもどこかで不登校になっていたと思う。」と言っていました。不登校は偶然ではなく、子どもにとって避けては通れないプロセスだったのかもしれませんが。また別の時に、「今は困ったことがあってもいつでも相談できる先生がいる。」とも言っていました。

私達にとって吹田子ども支援センターとの出会いがあったお陰で今の子どもの成長があるように思えます。

子どもにとっても時間を問わず、いつでも頼ることのできる津田先生に出会うことができて、先生にはご負担を多々お掛けしていますが、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

(2015年3月)



勉強は苦痛ではないとわかりました

…中学1年生女子M

私は、森本先生のところに来たばかりのころ、学校を休んでばかりで勉強も一切せず、学校にいたことが苦痛でした。家では、勉強や宿題をしないので親に怒られて家の中の空気が毎日ピリピリしていました。

学校に行っても、家で怒られてばかりできげんが悪いし、勉強もしてないので、まったく授業がわからなくて、おもしろくありませんでした。

でも、どこかで「このままではだめだ」と危機感も感じていました。

ここでは、最初はあまり勉強せず、先生とお話したりして、すぐに帰ったりしていましたが、「学校で勉強についていけないのは嫌だな…」と思い、少しずつするようになりました。

しばらくして、ここに来て、1回目のテスト期間になりました。

とりあえず、全教科の点を上げるのは、あの時の私には無理があったので、社会をまずは確実に点を上げるように努力をしました。

テスト期間中は、ほぼ毎日ここに来て、社会を勉強し続けました。

そして、テストが返ってきたら20点以上、点が上がっていました！

これに親も驚いていて、すぐに森本先生に電話をして知らせました。

先生も喜んでくれて、私もちゃんと結果が出たことがうれしくて、勉強が「苦」ではなくなりました。他の人から見たらたいしたことのない点数だけど、私にとっては大きな喜びでした。勉強は、コツをしっかりとつかんだら、苦痛ではないとわかりました。

それからは、少しずつ他の教科も取り組むようにしています。

今は、週に4回、そのうち2回を森本先生と社会と英語の勉強を、もう2回を寺島先生と数学の勉強をしています。数学では、苦手だった計算問題も最近出来るようになってうれしいです。

今度は、同級生と同じくらいの点数がとれたらいいなあ～。(2018年3月)

(追記)

勉強する気持ちにもなれず、学校にいたことが苦痛で学校をよく休んだ私でしたが、ここに来てからだんだん落ち着き、自分の夢も定まってきて、昔より勉強にはげめるようになりました。毎日のようにここに来て勉強していました。

そのおかげで、希望する看護学科のある高校に進学することができました。

これからは、高校生になっても自分の勉強をすると同時に、ここに来ている人のお手伝いができたらと思います。(2019年3月)

※ センターで学習支援を継続しています。センター事務職員として手伝いをしてくれています。

2022年4月より医療関係の専門学校に進学しました。

貴重な出会いに感謝

…今は、夢に向かい歩む娘です…

…保護者(女子Mの母)

娘は中学一年の時からこちらでお世話になりこの2月に無事に志望校に合格することができました。

こちらにお世話になる前の娘の状態は、学校へ登校していると思っていたら後で引き返してきて部屋の布団に引きこもっていたり、嘘をついたり、もちろん目標もなく勉強する意欲もまったく感じられない状態でした。

見かねた母親の私は、がみがみ叱りつけるだけで、親子の関係も最悪の状態でした。その時の私の心境は、希望もなく解決方法もわからず本当に疲れ切っていました。

そんな時に学校のカウンセラーの方の紹介で、森本先生に出会い、こちらにお世話になることになりました。

初めは、娘の胸にたまったどうしようもない想いや出来事などの話を先生方は根気よく聞いてくださり、娘の良いところを見つけて伝えてくださり段々と娘も先生方を信頼して心を開いていっているようでした。

学校は行きたがらなくてもこちらにはどんな時でも休みたがらずに約3年間、自転車で約30分の距離を雨の日も寒い日も暑い日もひたすら通っていました。

そうこうしている毎日の中で、娘は将来、看護師になりたいと言い出しその目標を先生方は温かく応援して下さりなんとか希望した看護学科のある高校への入学も決まりました。

私は、娘の良いところも見つけられず、信頼もできず苦しかった1年生の時を振り返ると本当にこの貴重な出会いに感謝しています。

高校受験が終わったので私は、3月でこちらも卒業かなと考えていましたが、娘の強い希望もあり、無事に看護学校に入学するまではこちらに気にせずに通っていいとの森本先生の言葉に甘えて通わせて頂くことになりました。

道半ばですが、このまま諦めずに将来の自分の夢を実現して先生方に恩返しをしてほしいと思います。

そして、笑顔のなかった娘がここまで元気になれたことに、森本先生、寺島先生、李先生、その他の先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

また高校3年間どうぞよろしくお願ひ致します。(2019年3月)



4年間 多くの出会いがありました

… 学んだことを心に教職に …

…スタッフ Y (大学生)

私は大学1年から4年まで、ボランティアスタッフとして多くの子どもと関わってきました。この4年の間で、ただぼんやりと大学に通っているだけでは知らなかったであろう多くの出会いと学びがありました。子どもに勉強を教えたり、話すうちに私も大きく変わることができました。

初めての生徒は中学生の女の子でした。子どもカフェの掃除を進んでしたり、先生と笑い合っ楽しんでいたり、優しく明るい子です。

その子との時間はお喋りをしたり、ゆっくり宿題をしたりと、学校の放課後に雰囲気が出ていました。正直私は、遊んでいるだけじゃないか、これでいいのか、これでこの子のためになっているのか、と不安に思っていました。しかしある日、その子が私に言った言葉は私の考えを改めさせました。

「ユジン先生はね、どんな話でも聞いてくれるから好き。学校の先生いつもちゃんと話聞いてくれへんし、怒られるだけやから、もう話さへんねん。」この言葉で、私は子どもを受け入れる大切さに気付きました。最初は学校しんどい…と暗い顔でくるこの子が、子どもカフェを第二の家とまで呼び明るい表情に戻るのには、森本先生を始め自分を受け入れてくれる人がいるからでした。ここはただ勉強をさせるだけの場所ではない、自分が自分らしくいられる場所だったのです。

子どもの話を聞いていると、大人の感性だとくだらないと感じそうなことに悩んだり、甘いな〜と思うことを言っていたりします。でも、それでいいと私は思います。子どもも自分なりに一生懸命考えて生きています。それをいきなり否定するのではなく、まず受け入れる。それから解決方法を一緒に考えたり私の意見を伝える。そうすることで子どもたちも人の意見に耳を傾けるようになり、どんどん色々なことを考えられるようになりました。

その子も、もう1年経つと高校を卒業します。しっかり自分の未来を自分で考えている姿を見ると、「何もしたくない」と嘆いていた頃から大きな成長をしたとはっきり感じます。

もう1人、印象に残っている子がいます。

この子は子どもカフェにくるといつも一生懸命勉強を頑張る子でした。初めての学習は、60分かけて「Monday」「Tuesday」「Wednesday」の3つを覚えて終了しました。来週「曜日」を英語で書く小テストがあると聞いた私はひとりで焦っていました。

私基準でのものさしでしか考えられず、60分もあれば曜日なんて覚えられると決

めつけていたからです。次の週では、その3つを最初から覚え直し結局その3つだけ覚えてテストを受けました。その次の週、その子は私に「3つも書けた、ありがとう先生〜!」と嬉しそうに報告してくれました。

そうだ、ここは塾じゃない、一人一人が自分がやる最高を出す場所。少しずつ頑張ることを続けていけばいい。子どもカフェは一人一人が自分のペースで一生懸命に進んでいける場所だと改めて感じました。

私は子どもカフェでの活動により、子どもの力になりたいという気持ちが強くなりました。森本先生やその周りの先生方、そして関わってきた沢山の生徒たちのおかげでこの春から教員として過ごしていきます。これから先、多くの子どもと出会うでしょう。しかし子どもカフェのみんなはいつまでも私の心にあります。私の教育に臨む根本はここにあるからです。

子どもカフェのみんなを笑顔にできたように、これから出会う子ども達も笑顔にしていこうと思っています。本当に素晴らしい出会いをありがとうございました。

(2021年3月)

※ 2021年4月より、小学校教師として赴任されています。

子どもと過ごす充実した日々

… 学習スタッフとして参加して …

…スタッフ Y (元教師)

学習支援スタッフとして英語を教え始めてほぼ一年がたちました。

私は、昨年度の3月末に退職するまで長く中学・高校で英語を教えてきましたが、4月に地元の友人に紹介され学習支援のスタッフとして参加することになりました。

学校に勤務していた頃には、不登校になる生徒・退学してしまう生徒がいても充分にかかわることができなかつたので、子どもたちにより親しくかかわれる場所があるのは素晴らしいことだと思いました。

この一年間の中で、私がかかわった5人の子どもたちは、それぞれにしんどさをかかえながらも頑張ろうとしていました。私も、一人一人の状況、興味・目標にあわせた指導を心がけました。子どもの体調が悪かったりなど来ることができない日もありましたが、なんとか一年間続けられたと思います。

はじめはテキストを忘れてたり、宿題をやつてこなかったりしていましたが、少しずつ学習に慣れてきて、勉強することが嫌ではなくなってきたようでした。ほぼ毎回小

テストをするのですが、次第に点が取れるようになり、「やればできる」ことを実感してくれたのではないのでしょうか。

中学3年生の3人は高校に合格し、新しい歩みを始めています。英語検定4級、準2級に合格した子どももいます。子ども達や私にとっても、頑張った成果が目に見えるのはうれしいことです。

成果が自信につながり、子どもカフェを卒業しても、ひとりで英語を勉強することができる力につながるものと信じています。

活動に参加して一年、学校にいては見ることの出来なかった子どもの姿に接し、発見と驚きの連続で毎日が新鮮でした。ただし、私のかかわった子どもたちは、少なくとも、「家から外に出て、英語を勉強するために子どもカフェ（支援センターの学習場所）まで来る」ことができる子ども達です。

ここに至るまでの間に、スタッフの方々の引きこもっている子どもたちへの地道な働きかけやきめ細かな配慮があることを日々思っています。

まだまだ初心者ですが、これからも充実した日々を子どもたちと共に過ごしていきたいです。（2020年3月）

一生忘れられない貴重な体験

…学習スタッフA（大学院生）

私は3年ほど前から、教員を目指しているということもあり、恩師のお誘いで、子どもカフェで子どもたちの学習支援をさせて頂いています。学習支援といっても、初めの頃はトランプや雑談など子どもたちの居場所作り主な活動でした。

その中で、一人の女の子が英語の学習を始めたいということを耳にし、1週間に1度くらいのペースで英語学習を開始することになりました。

なかなか思うように学習を進めることができていなかった彼女にとって、この一歩はとても大きな一歩であったと感じ、私もどうか彼女の力になりたいと思いました。初めは慣れない状況で、15分ほどの学習がやっとだった彼女ですが、それでも投げ出さずに少しずつ学習し、今では毎週1時間以上の授業をこなしています。そうして段々と彼女の英語に対する関心も高まり、それが次には自信につながっていく様子を見ることができ、涙が出るほど感動したこともあります。

中学校からの高校進学に対してさえ前向きではなかった彼女が、高校進学を決め現在は大学進学に積極的に挑戦する姿は本当に逞しく、パワーに溢れています。

私はこの学習支援を通して、子どもたちの持つ可能性を目の当たりにしました。

様々な日々の困難の中で、子どもたちが立ち止まってしまうこともあると思います。

しかし、彼らにはもう一度歩き出す力があり、その力を蓄える居場所として子どもカフェの存在は非常に重要なものであると感じました。私のような少し自分たちよりも年上の学生とたわいの無い話をする時間や、他者と関わる時間をもつことは、立ち止まっている子どもたちの心を少し外向きに開いてくれるのではないかと思います。

親から言われると反抗してしまうようなことも、他の人からアドバイスされると案外簡単に受け入れられることもあります。進んだり戻ったりを繰り返しながら、少し背中を押してあげることで、驚くほどぐんぐん成長していく姿を見て、その可能性を絶対に諦めてはいけないと学びました。

ここでの経験は私にとって大変貴重なものであり、教員になる上でも一生忘れず持っていたいと思うようになりました。

この子どもカフェは、子どもたちはもちろんですが、私のような学生にとっても非常に素晴らしい経験を積むことのできる場所であり、その場に関わることができて本当に幸せです。

助けを必要としている子どもたちやそのご両親にとって、子どもカフェが大きな支えになっているのだと実感しました。（2018年3月）

※ 2018年4月より高校教師として赴任されました。





- ◆ ニュースや友達から聞く限りですが、学校教育の現場は益々厳しく、課題も多様化しているとのこと。
支援対象を子ども、親に限局せず、「市民ネットワークをつくっていこう」とされることに共感しました。(市民)
- ◆ 子ども達を育てていく親としても、このような「場」があることは安心感につながります現場で悩む若い教職員の方々に支えてくださる事にも期待しております。(市民)
- ◆ 大学生をサポートする仕事をしています。
子どもの相談援助や就職等専門機関の情報提供及びそこへつなぐ事ならいつでもご連絡下さい。(市民)
- ◆ 3人の子どもを育てています。子育ての悩みを親御さんから聞くことなら出来ます。支援をしたいです。(市民)
- ◆ パソコン関係の仕事をしていました。パソコンを子ども達に教えることができます。(市民)
- ◆ 私は、自身が身体障がいの後遺症を負い「いつか障がい者の方や不登校・ひきこもりの方へサポートをしたい。自分の経験を生かし、お役に立ちたい」と思っていました。活動を手伝わせて下さい。(市民)
- ◆ 大学生の支援員が必要な時は、声をかけて下さい。学生達に呼びかけます。また、講演会を開催される時に大学を利用していただければと思います。(大学教授)
- ◆ 近所の母子家庭のお子さんが自宅にず〜っと引きこもっているのを知りどうしたものか困っていたところ、近所の人に森本先生に相談したらと勧められました。さっそく学校や母親と連絡され、今、勉強を見ていただいているとのこと、ありがとうございます。(市民)
- ◆ 私は、大学生時代は、塾の講師のアルバイトをしていました。子どもが好きなので子どもに勉強を教えることが出来れば嬉しいです。(市民)

- ◆ ホームページを拝見しました。私は、将来教師になることを目標に東京の大学で学んでいます。吹田まで伺い、直接的な活動支援は出来ませんが、賛助会員として支援します。頑張ってください。(大学院生)
- ◆ 社会福祉関係の仕事についております。教職経験のない私ですが、何かお役にたてることがありましたらご連絡下さい。(市民)
- ◆ 昨年吹田の小学校を退職しました。小学校の子ども達のお役にたてることがありましたらご連絡下さい。(元教師)
- ◆ 今春、大学生になりました。ホームページを見てスタッフになれたらと連絡させていただきました。小学校の先生になりたいと思っています。不登校の子どもやひきこもりの子どもと接したいです。私でも大丈夫でしょうか。(大学生)
- ◆ Aさんのお手紙、すっかり高校生らしくなったBくん姿…大変嬉しく思いました。本当に「吹田子ども支援センター」の皆様のおかげです。
今回の活動報告を拝見して、改めて厳しい運営状況がわかりました。
企業会員に入会させていただきたいと思えます。(連携する医療法人医師)
- ◆ 着実に子どもの前に階段を用意しようとされておられることに共感を覚えます。お手伝い、出来ることはさせていただきます。(元教師)
- ◆ 子ども達と社会との架け橋になることであれば、私の出来ることで協力させていただきます。(市民)
- ◆ 活動に共感します。少しでも不登校の子ども達の力になればと思います。ご連絡下さい(元教師)
- ◆ たくさんの子どもたち、親たち、先生たちが救われたことでしょう。これから活動も是非とも続けて下さい。私も応援します。(市民)
- ◆ 子ども達が学校に戻っていくお手伝いが出来たら嬉しいです。(大学生)
- ◆ 主婦です。教職経験はありません。わが子が不登校になり悩んでいた時、吹田子ども支援センターの活動をホームページで知り、私にでもお役にたてることが

あればお手伝いをしたいと思い連絡しました。(市民)

- ◆ 講演会も良かったですが、本日のような少人数での親の相談会・交流会も有り難いです。同じ悩みを抱えたお母様方と同じ時間を過ごせて癒されました。(中学3年生の母)
- ◆ 大学の講義で、不登校の子どもへの関心が深まり、是非とも関わりたいと思いました。授業の空いている時間に出来るだけかかわりたいです。(大学生)
- ◆ 大学院で英語を学んでいます。大学教授から、吹田子ども支援センターの活動を教えてもらいました。夜間や休日であれば子ども達の英語の勉強のおてつだいができます。声をかけて下さい。(大学院生)
- ◆ 娘が支援センターにお世話になり、今は元気に働いております。感謝の気持ちで、企業会員として毎年わずかですが賛助金を振り込ませていただきます。
- ◆ 福祉関係の仕事をしていました。不登校のお子様を育てておられるお母さんの相談相手になれば電話しました。お役に立てることがあれば、ご連絡下さい。(市民)
- ◆ 今年の春に大学に入学しました。教師を目指しています。是非ともお手伝いをさせて下さい。(大学生)
- ◆ 私の息子が孫の事で先生にお話を聞いて頂き、すごく心の支えになったと思います。ありがとうございました。私が、お話に寄せていただいた時、2階の狭い部屋いっぱい生徒さんに勉強させてあげていたのが頭にあります。相談や生徒さんのお世話にと大変なお仕事に頭が下がります。一人でも多く困った人を助けてあげて下さい。(市民)



子育てはみんなが悩んで歩んだ道

ご相談ください！先ずはお電話を！

不登校・発達障がい(ADHD)・学力や遅れ・教育トラブルなど

経験豊富な教育や心理の専門家が、

アドバイスや支援を行います！

相談・学習支援・開館・相談・料金

面談は、当センターに電話をされ予約をお願いします。



- ◆ 開館曜日 月～金 ◆ 開館時間 10～17
開館日以外・時間外でも可能な限り対応します。
 - ◆ 電話相談 緊急以外は10時～20時まで 無料(15分以内)
 - ◆ 面談 初回のみ30分以内無料 以降有料(お問い合わせ下さい)
 - ◆ 学習支援(センターでの支援、家庭訪問支援)、
子どもカフェ(居場所)の料金等は問い合わせ下さい。
- ※ **不在の場合もあります。来所前に予約・在室確認の電話を入れてからお越し下さい。**

子どもをささえる 市民がつながる

吹田市民公益活動団体 吹田子ども支援センター

吹田市千里山西1丁目2-7-
阪急関大前駅北改札口西側
千里山西郵便局階上2階 202号



電話：090-3464-0850

携帯メール：suita0850@docomo.ne.jp

PCメール：suitakod0850@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://www.suita-kodomosien>

